

平成25年度

山岳自然保護の集い（中央大会）  
プログラム

第37回 公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員総会

守ろう、伝えよう、  
山岳の自然と文化

期日	平成25年9月14日(土)～16日(月)
開催地	県立小川げんきプラザ（埼玉県比企郡小川町）
主催	公益社団法人 日本山岳協会
主管	山岳自然保護の集い（中央大会）実行委員会
後援	環境省、埼玉県、小川町、小鹿野町、 (株)山と溪谷社・日本山岳遺産基金

要項	2
実施内容の説明	4
議事資料	6
平成 24-25 年度事業報告・平成 25 年度計画	7
事業報告	9
自然保護指導員登録の現況報告について	14
総合セッション資料	20
茨城県山岳連盟自然保護委員活動報告	21
群馬県山岳連盟 自然保護委員会 活動報告	23
埼玉県山岳連盟自然保護委員会主催事業報告	26
東京都山岳連盟自然保護委員会活動一覧	27
神奈川県山岳連盟自然保護委員会活動の概況報告	30
山梨県山岳連盟・自然保護委員会活動	34
新潟県山岳協会自然保護委員会活動報告	37
「静岡県山岳連盟における自然活動状況」について	39
愛知県山岳連盟自然保護委員会活動報告	40
三重県山岳連盟自然保護委員会活動報告	41
自然保護活動状況 京都府山岳連盟	42
自然保護活動報告 大分県山岳連盟	45
モーニングウォーク	46
個別セッション資料	48
個別セッションA	49
個別セッションB	50
個別セッションC	51
公開イベント資料	56
芸能：小鹿野こども歌舞伎	57
講演：ツキノワグマを通してみた山岳自然について	58
講演：知知夫国と嶽（たけ）やま（武甲山）	60
講演：「山はみんなの宝」憲章制定の経緯	63
ナイトフォーラム資料	64
宇宙創成から現在の日本列島まで	65
星空ウォッチング	67
エキスカカーション資料	68
両神山	69
高尾山	72
長瀨地質探勝	73
付録	76
会場地付近図	77
タイムスケジュールと施設見取り図	78
総会開催地一覧	79
参加者名簿	80
小川げんきプラザ館内案内図	83

平成25年度  
山岳自然保護の集い 中央大会  
第37回 (公社) 日本山岳協会・自然保護委員総会

\*目的

在来の自然保護委員総会を継承し、総合的・全国的な新しいタイプの集いを開催する。  
平成25年度に日本山岳協会が公益法人化したことを記念して、公益活動として開催をおこなう。  
この集いでは、山岳の自然環境の保全についての現状と課題を討議し、山岳自然と文化の再発見を通して、登山者が出来る保全や再生に向けた行動を考える集いとする。

\*大会のテーマ

『守ろう、伝えよう、山岳の自然と文化』

## 要項

1. 期 日 平成25年9月14日(土)～16日(月)
2. 会 場  
(宿泊先) 埼玉県立小川げんきプラザ  
〒355-0337 埼玉県小川町木呂子 561  
電話 0493-72-2220 ホームページ <http://ogawagenki.com/>
3. 主 催 公益社団法人 日本山岳協会
4. 主 管 山岳自然保護の集い 中央大会 実行委員会 (関東地区山岳連盟 自然保護委員会)
5. 後 援 環境省、埼玉県、小川町、小鹿野町、(株)山と溪谷社 (予定)
6. 日 程 (時刻については状況により変更することがあります。)

### 第1日 9月14日(土)

- ア 役員会議  
イ、受付時間 12時00分 (昼食は済ませてきてください)  
ウ、受付場所 埼玉県立小川げんきプラザ 本館玄関  
エ、自然保護委員長会議 12時30分より 本館3F 集会室にて  
各県の自然保護委員長(代理)の方は時間までにお集まりください。  
オ、開会式 13時30分～14時00分  
カ、総会 14時00分～15時00分  
キ、集合セッション 15時15分～17時45分  
ク、夕食 18時00分～19時00分  
ケ、レセプション 19時00分～21時00分  
コ、就 寝 22時00分

### 第2日 9月15日(日)

- ア、モーニングウォーク  
6時00分～7時30分 (参加自由)  
施設内のフィールドを歩き、自然を楽しみます。  
草本類の案内 廣田委員、樹木の案内 紅葉委員

- イ、朝食 7時30分～8時30分  
 ウ、個別セッション 9時00分～12時00分  
 エ、昼食 12時00分～12時45分  
 オ、公開イベント (総合司会 遠山委員)  
 1) 地元芸能 13時00分～14時00分  
 (小鹿野町こども歌舞伎) 柳原委員  
 2) 講演 14時00分～17時30分  
 カ、夕食 18時00分～19時00分  
 キ、ナイトフォーラム 19時00分～20時00分 (参加自由)  
 宇宙創成から現在の日本列島まで 藤井委員(本館 集会室)  
 星空ウォッチング 齋藤(次)委員(本館 研修室・天文台)  
 ク、就寝 22時00分

第3日 9月16(月)
-------------

(両神山エクスカーションへの参加者の場合) 石倉委員長、岩崎・齋藤・手塚委員

- ア、起床 5時00分  
 イ、出発 5時30分  
 ウ、解散 16時00分 (小川げんきプラザ)

(高尾山エクスカーションへの参加者の場合) 西山委員・小高事務局長

- ア、起床 6時00分  
 イ、朝食 7時30分  
 ウ、出発 8時30分  
 エ、解散 14時00分 (高尾山駅)、15時00分 (小川げんきプラザ)

(長瀨地質探勝への参加者の場合) 藤井委員・松隈副委員長

- ア、起床 7時00分  
 イ、朝食 7時30分～8時30分  
 ウ、出発 8時30分  
 エ、解散 14時00分 (小川げんきプラザ)

(エクスカーションへの参加されない場合)

- ア、起床 7時00分  
 イ、朝食 7時30分～8時30分  
 ウ、出発 8時30分 (東武東上線 小川駅)

## 実施内容の説明

総会（9月14日 14時00分～15時00分） 活動センター 2F

司会・進行 小高事務局長

（次第）

- |           |                       |                    |
|-----------|-----------------------|--------------------|
| ア、開会宣言    | 自然保護副委員長              | 徳永 邦光              |
| イ、主催者挨拶   | 日本山岳協会会長              | 神崎 忠男              |
| ウ、主管代表挨拶  | 日本山岳協会自然保護委員長         | 石倉 昭一              |
| エ、開催地岳連挨拶 | 埼玉県山岳連盟会長             | 森下 健七郎             |
| オ、来賓挨拶    | 埼玉県環境部みどり自然課長<br>小川町長 | 脇坂 純一 様<br>笠原 喜平 様 |
- カ、議 題
- 1) 日本山岳協会自然保護委員会 事業報告
  - 2) 大会スローガン説明
  - 3) 次期開催について
- キ、連絡事項

集合セッション（9月14日 15時15分～17時45分） 活動センター2F

- ア、各活動状況発表 徳永副委員長
- イ、課題提起

モーニングウォーク（9月15日 6時00分～7時30分） 研修室

- ア、施設内の周遊コースを利用 廣田委員、紅葉委員

個別セッション（9月15日 9時00分～11時00分） 研修室 集会室

### 【個別セッション】

- ア、課題A（利用者負担・受益者負担） 齋藤（長）・堀江委員、記録：本村委員
- イ、課題B（資源・自然疲弊） 西山・小高委員、記録：小川由樹委員
- ウ、課題C（自然保護指導員の役割） 紅葉常任委員・松隈副委員長、記録：池谷委員

全体会議（9月15日 11時10分～12時00分） 研修室

- ア、分科会の報告
- |                  |         |
|------------------|---------|
| 課題A（利用者負担・受益者負担） | 齋藤（長）委員 |
| 課題B（資源・自然疲弊）     | 西山委員    |
| 課題C（自然保護指導員の役割）  | 紅葉委員    |
- イ、まとめ 徳永副委員長

公開芸能（9月15日 13時00分～14時00分）活動センター1F

総合司会 遠山委員  
ア、小鹿野こども歌舞伎（小鹿野町・小鹿野歌舞伎保存会） 司会 柳原委員

公開講演（9月15日 14時00分～17時00分）活動センター1F

総合司会 遠山委員  
ア、ツキノワグマを通して見た山岳自然について 長縄 今日子 氏（14:00-15:00）  
イ、「山はみんなの宝」憲章の制定と参加者の皆さんへの期待 上 幸雄 氏（15:00-16:00）  
ハ、知知夫国と嶽（たけ）やま（武甲山） 浅見 豊 氏（16:00-17:00）

ナイトフォーラム（9月15日 19時00分）研修室・集会室

ア、宇宙創造から現在の日本列島まで 藤井委員  
イ、星空ウォチング 齋藤（次）委員

エクスカーション（9月16日）

ア、両神山（5:00 出発）  
元気プラザ（マイクロバスにて）  
A班 山頂…下山専用登山道…昇竜の滝…白井差（ガイド：山中氏）…約2時間30分  
B班 山頂…ブナ平…水晶坂…昇竜の滝…白井差（ガイド：岩崎氏）…約2時間00分  
イ、高尾山（9:00 出発）  
元気プラザ（マイクロバスにて）…登山口…（60分）…山頂→（30分）…  
表参道・十一丁目茶屋…（40分）…京王線・高尾山口駅（解散14時半予定）  
ウ、長瀬地質探勝（8:45 出発）  
元気プラザ（マイクロバスにて）—長瀬…（60分）…県立自然の博物館（レクチャー聴講、館内見学）—親鼻橋（紅簾片岩）—和銅遺跡—前原の不整合—前原の不整合—小川げんきプラザ

注：エクスカーションへ参加されないで一般交通で帰宅される方は東武小川駅へのバス便の用意があります。

## 議 事 資 料

- 1) 24-25年度事業報告・平成25年度計画
- 2) 平成25年度日山協自然保護委員会の構成
- 3) 事業報告
- 4) 保護指導員登録の現況報告

# 平成 24-25 年度事業報告・平成 25 年度計画

自 24-10-1 ～至 25-8-31

自然保護常任委員会

## 平成 24-25 年度事業報告

年月日	事業名	備考
24. 11. 20	H24 第八回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 37 回自然保護委員総会</li> <li>・関東ブロック自然保護交流会について</li> <li>・自然保護指導員研修会開催につて</li> <li>・委員長・副委員長会議</li> <li>・減少対策に向けた施策の立案</li> <li>・指導員登録証・腕章の刷新について</li> </ul>
24. 12. 18	H24 第九回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳自然保護の集い 中央大会開催要項策定</li> <li>・次年度以降の活動の方向転換について</li> <li>・減少対策に向けた施策の立案</li> <li>・指導員登録証・腕章の刷新について</li> </ul>
25. 1. 19	H24 年度第十回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25 年度計画</li> <li>・山岳自然保護の集い・中央大会実施案 修正</li> <li>・長野県山岳協会主催の山のセミナー派遣：松隈</li> <li>・減少対策に向けた施策の立案</li> <li>・指導員登録証・腕章の刷新</li> </ul>
25. 2. 19	H24 年度第十一回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度に向け</li> <li>・山岳自然保護の集い・中央大会実施案 修正</li> <li>・総会シミュレーション兼ねた研修開催について</li> <li>・自然保護指導員減少対策にについて</li> <li>・指導員登録証・腕章の刷新検討について</li> </ul>
25. 3. 19	H24 年度第十二回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳自然保護の集い中央大会計画検討</li> <li>・総会シミュレーション兼ねた常任研修実施について</li> <li>・登録証・腕章の刷新</li> </ul>
25. 4. 16	H25 年度第一回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新腕章・新登録証の配布開始</li> <li>・環境省自然公園指導員功労者推薦</li> <li>・山岳自然保護の集い要項策定</li> <li>・総会シミュレーション兼ねた常任研修</li> </ul>
25. 4. 22	H25 年臨時常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神崎会長を囲んで</li> </ul>
25. 5. 19	H25 年度第二回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園指導員活動報告書の提出</li> <li>・大会施設利用について</li> <li>・大会要項の検討と確認：</li> <li>・大会施設の確認</li> <li>・会議の進めかた：</li> <li>・役割分担：実行委員会形式。</li> <li>・エキスカージョン下見</li> </ul>
25. 6. 18	H25 年度第三回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25 年度の委員会役員の確認</li> <li>・総会シミュレーション兼ねた常任研修の反省</li> <li>・山の自然と神々のセミナー：5 月 28 日（松隈）</li> <li>・総会の開催要項加盟団体に配布</li> <li>・総会の後援（環境省・埼玉県・小鹿野町・小川町）</li> </ul>
25. 7. 16	H24 年度第四回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳自然保護の集い・中央大会実施案 要項策定</li> <li>・実行委員係り分担の再確認：実行委員 35 名</li> <li>・後援確認：環境省、埼玉県、小川町、山と溪谷社</li> <li>・各県発表資料の募集（都府県岳連・岳協に依頼）</li> <li>・平成 25～26 年度自然公園の委嘱について</li> </ul>
25. 8. 16	H25 年臨時常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会準備</li> </ul>
25. 8. 20	H24 年度第五回自然保護常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会準備</li> </ul>
24. 12. 17	山岳団体自然環境連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本山岳ガイド協会が連絡会へ新規参加</li> </ul>



25. 1. 29	山岳団体自然環境連絡会	・茅野徹氏に聞く米国事情 ・アラスカ国際会議 (Sustainable Summits) 紹介
25. 2. 26	山岳団体自然環境連絡会	・環境省国立公園課との情報交会 (2回)
25. 4. 26	山岳団体自然環境連絡会	・環境省国立公園課との情報交流 (3回)
25. 5. 28	山岳団体自然環境連絡会	
25. 6. 6	山岳団体自然環境連絡会	・H25 秋予定の国際環境会議は H26. 7 に延期
25. 7. 29	山岳団体自然環境連絡会	・環境省国立公園課との情報交流 (4回) ・山岳写真データベース ・伊那市観光課 南国立公園50周年を迎えて
25. 6. 27	「山はみんなの宝」憲章 発表制定大会	・各山城からの報告 ・憲章制定の趣旨と発表 ・制定後の活動について
25. 2. 4	第9回スポーツと環境担当者会議	・NF に於ける環境啓発の取り組み ・スポーツと環境保全・啓発活動の理念と実践
24. 11. 26	自然保護指導員研修会	・安間繁樹氏講演《イリオモテヤマネコ》
25. 5. 19～20	平成 25 年度常任委員研修会	・埼玉県立小川げんきプラザにて開催 ・山岳自然保護の集い実行委員会キックオフ

## 平成 25 年度事業計画

山岳環境保全事業（公益目的事業 3（登山研究調査事業））

登山活動の山岳自然に対する負荷を自覚し、山岳自然を美しく保ち、後世に伝えるために山岳自然保護活動を行う。また、山岳自然保護活動の推進及び他団体と連携した環境保全活動を推進する。

自然保護指導員制度の普及推進を図り、且つ、自然保護指導員組織の充実強化と活動の促進を図る事業を実施する。

ア) 研修及び研究会

①自然保護委員総会・研究会

9/14 (土) ～16 (月) 山岳自然保護の集い 中央大会

②常任委員現地研修会 (5月19日～20日に実施済み)

③自然保護指導員研修会 11月、東京

イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

②全国環境月間(6月)の実施

③環境庁・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会（労山, JAC, 都岳連, HAT-J, 山の ECHO, 日山ガイド協）へ参加

## 平成 25 年度日山協自然保護委員会の構成

### 常任委員

委員名	役割	所属等
石 倉 昭 一	委員長	埼玉県山岳連盟
徳 永 邦 光	副委員長	東京都山岳連盟
松 隈 豊	副委員長	神奈川県山岳連盟
小 高 令 子	事務局長	東京都山岳連盟
小 原 美 子	会計	東京都山岳連盟
小 川 由 樹	書記	茨城県山岳連盟
手 塚 福 寿		栃木県山岳連盟 自然保護委員長
齋 藤 長 作		群馬県山岳連盟 自然保護委員長
岩 崎 繁 夫		埼玉県山岳連盟 自然保護委員長
堀 江 伸 子		埼玉県山岳連盟 自然保護副委員長
西 山 常 芳		東京都山岳連盟 自然保護委員長
廣 田 博		東京都山岳連盟
濱 田 伸		千葉県山岳連盟 自然保護委員長
紅 葉 淳 一		神奈川県山岳連盟
遠 山 若 枝		山梨県山岳連盟

### 自然保護委員

氏名	所属
佐 藤 健	北海道山岳連盟
山 田 秀 樹	青森県山岳連盟
植 田 瑞 穂	岩手県山岳協会
尾 形 憲 治	宮城県山岳連盟
今 野 幸 男	秋田県山岳連盟
高 取 和 彦	岩手県山岳協会
小 林 正 彦	福島県山岳連盟
中 沢 隆 一	茨城県山岳連盟
手 塚 福 寿	栃木県山岳連盟
齋 藤 長 作	群馬県山岳連盟
岩 崎 繁 夫	埼玉県山岳連盟
濱 田 伸	千葉県山岳連盟
西 山 常 芳	東京都山岳連盟
松 隈 豊	神奈川県山岳連盟
磯 野 澄 也	山梨県山岳連盟
伊 藤 直	新潟県山岳協会
小 林 貞 幸	長野県山岳協会
藤 井 久 一	富山県山岳連盟
出 嶋 和 夫	石川県山岳協会
矢 島 賢 治	福井県山岳連盟
豊 田 稔	静岡県山岳連盟
杉 本 三 郎	愛知県山岳連盟
橋 本 介 伺	三重県山岳連盟
門 屋 峰 雄	岐阜県山岳連盟

氏名	所属
井 上 茂	滋賀県山岳連盟
山 本 憲 彦	京都府山岳連盟
	大阪府山岳連盟
吉 野 朱 美	兵庫県山岳連盟
野 田 健 司	奈良県山岳連盟
北 義 章	和歌山県山岳連盟
松 塚 明 則	鳥取県山岳協会
吉 持 滋	島根県山岳連盟
津 島 勝 洋	岡山県山岳連盟
福 永 やす子	広島県山岳連盟
井 上 佑	山口県山岳連盟
三 枝 公 明	香川県山岳連盟
後 藤 田 恵美子	徳島県山岳連盟
梶 原 勇 機	愛媛県山岳連盟
麻 田 正 博	高知県山岳連盟
貞 刈 誠	福岡県山岳連盟
國 松 和 裕	佐賀県山岳連盟
宮 田 和 久	長崎県山岳連盟
西 本 安 幸	熊本県山岳連盟
波 多 野 英 哲	大分県山岳連盟
佐 藤 利 治	宮崎県山岳連盟
鮫 島 寛 行	鹿児島県山岳連盟
崎 浜 国 重	沖縄県山岳連盟

## 事業報告

No.	事業名	開催日	開催場所
1	コカ・コーラ「赤城：黒桧山」清掃登山	2012-11-10	赤城山・黒桧山
2	第三回日山協自然保護指導員研修会・公開講座	2012-11-17	ラパスホール (東京・大塚)
3	関東地区自然保護交流会	2012-12-2～ 4	埼玉県山岳連盟 岳の家 (秩父市)
4	平成 25 年度常任委員研修会	2013-5-18～ 19	埼玉県立小川げんき プラザ (比企郡小川町)
5	山岳自然の集い 中央大会 (第 37 回自然保護委員総会)	2013-9-14～ 16	埼玉県立小川げんき プラザ (比企郡小川町)

備考： 上表 1～4 項の詳細については、次ページ以降をご覧ください。

### 山岳自然保護の集い 中央大会 開催準備の経緯

No.	事業名	開催日	開催場所
1	開催地サーベイ、げんきプラザへ仮申し込み (岩崎・松隈)	2012-11-28	(女性会館、小川げん きプラザ)
2	開催地・開催名を決定 (12 月常任委員会にて)	2012-12-18	
3	開催予報を都道府県加盟団体へ配布	2012-2-5	
4	埼玉県庁打ち合わせ(石倉・岩崎・松隈)	2013-3-6	埼玉県庁
5	実行委員会キックオフ (実行委員研修と常任研修会を兼ね)	2013-5-18～ 19	小川げんきプラザ
6	開催要項加盟団体へ配布	2013-5-31	
7	小川町げんきプラザ小川町・小川町へ開催要項 の説明と打ち合わせ (石倉・岩崎・松隈)	2013-6-5	小川げんきプラザ・小 川町・小鹿野町・観光 物産センター
8	小川町後援承認受領	2013-6-18	(郵送)
9	埼玉県後援承認受領	2013-6-19	埼玉県庁
10	長縄氏 (講演者) 打ち合わせ (紅葉・遠山))	2013-7-1	秦野ビジターセンター
11	浅見氏 (講演者) 打ち合わせ (紅葉・遠山))	2013-7-2	浅見氏宅 (秩父)
12	上氏 (講演者) 打ち合わせ (紅葉・遠山))	2013-7-4	山の ECHO (新橋)
13	小鹿野子ども歌舞伎打ち合わせ (石倉・岩崎・ 松隈)	2013-7-11	小川げんきプラザ
14	環境省後援承認受領	2013-7-16	
15	小川げんきプラザ利用申請と打ち合わせおよび 長瀬・モーニングウォークの現地サーベイ (岩崎・紅葉・堀江・松隈)	2013-8-21	小川げんきプラザ

# コカ・コーラ「赤城：黒桧山」清掃登山報告

平成24年11月19日  
埼玉県山岳連盟 岩崎

1. 期 日 平成24年11月10日(土) 天気：雨のち曇り
2. 場 所 群馬県「赤城：黒桧山～駒ヶ岳」
3. 参加者
- |                  |    |               |     |
|------------------|----|---------------|-----|
| コカ・コーラ株式会社(本社) … | 8名 | 三国コカ・コーラ株式会社… | 3名  |
| NPO法人 グリーンバード…   | 9名 | 一般参加者…        | 63名 |
| 日本山岳協会           | 6名 | 合計            | 89名 |
- ・ 斉藤長作(群馬岳連自然保護委員長) ・ 角田 ・ 松本 ・ 須田以上4名群馬岳連  
・ 手塚福寿(栃木岳連自然保護委員長) ・ 岩崎繁夫(埼玉岳連自然保護委員長)



参加者集合写真(赤城大沼駐車場にて)



閉会式(赤城大沼駐車場にて)



今回の清掃登山で拾い集めたゴミ

※ 紅葉のシーズンの為に高速道路の渋滞にはまり赤城大沼、駐車場に40分程遅れた小雨降る中到着する。茶店の中で閉会式を行いバス別に大宮発バス、新宿発バスの順に黒桧山登山口へ行き、登山開始・・・新宿班には松本氏・須田氏・岩崎が担当した。大宮班は斉藤氏・手塚氏・角田氏が担当  
気温が低く寒い、下山して来る登山者が多くすれ違うのに時間を要するので3班に分けて黒桧山に向かう、高度が上がるに連れ所々に数日前に降った雪が残る、黒桧山山頂に予定より20分程度遅れて到着、昼食後、駒ヶ岳経由にて大沼駐車場に全員無事下山する、閉会式後それぞれ来た時のバスで温泉に向かう。ゴミは先発班が多く回収した為か我々の班では余り無かった。

## 第三回日山協自然保護指導員研修会・公開講座 実施報告書

### 1. 実施事業の概要

事業名	社) 日本山岳協会 自然保護指導員研修会・公開講座
主催	社) 日本山岳協会 (担当: 自然保護委員会)
主管	東京都山岳連盟 自然保護委員会
開催目的	次の3点を図る: ①既登録自然保護指導員の資質向上、②新規指導員登録希望の養成、③関東ブロック岳連の情報交流
開催日時	平成 24 年 11 月 17 日 9:00~12:00
開催場所	ラパスホール (東京・大塚)
募集対象	関東ブロック山岳連盟所属の公認自然保護委員登録者又は登録希望者、一般市民
参加数	56 名

### 2. 実施内容

2012 年 11 月 17 日 (土)、社団法人山岳協会が主催する自然保護指導員研修会・公開講座がラパスホール (東京・大塚) で 56 名が集った。この集い研修会部分と講演会部分の二部構成で開催され、9 時に始まった前半では、指導員の基礎知識についてのレクチャー、パネル討議 (各地の自然保護活動の課題) が行われ、後半は、農学博士 安間繁樹氏の「日本の生物相とイリオモテヤマネコ」と題した講演が行われ、午前中 3 時間ほどの集いに熱心に耳を傾けた。

前半の「指導員の基礎知識についてのレクチャー」では、日山協常任委員から指導員制度の展望について説明し、そのあと都岳連委員を講師に指導員の役割について説明された。その後、「自然保護活動の状況と課

題」と題して、群馬・栃木・神奈川・東京を出身の常任委員をパネラーに討議が行われ、地域の特色ある活動を状況説明し、自然保護指導員の率先した活動参加を呼び掛けた。研修部分の最後には、自然県境連絡会として実施している「山の野生鳥獣目撃レポート」の状況について説明。レポートへの参加協力を呼びかけた。

後半行われた講演では、日本が 125 種と、世界一の哺乳動物が生息する生態系豊かな国であるとし、日本列島の成り立ちと動物種の関係について地誌てきな観点から説明につづき、イリオモテヤマネコとそれに象徴され西表島の自然環境や、島内での本来植生の退行と外来種の寡占化など環境悪化など問題を提起、地域ぐるみで一つ解決を考えようと唱えた。



パネル討議の様子



講演の様子

以上

## 関東地区自然保護交流会 実施報告書

### 1. 実施事業の概要

事業名	社) 日本山岳協会 関東地区自然保護交流会
主催	社) 日本山岳協会 (担当: 自然保護常任委員)
主管	埼玉県山岳連盟 自然保護委員会
開催目的	次の 2 点を図る: ①常任 OB/OG、関東地区自然保護委員 を含め全体交流を行う、 ②H25 総会開催のキックオフ
開催日時	平成 24 年 12 月 2 日 (日) ~4 日 (火)
開催場所	埼玉県山岳連盟 岳人の家
募集対象	常任委員、常任委員 OB/OG、関東地区山岳連盟所属の自然保護委員
参加数	27 名

### 2. 実施内容

秩父の夜祭の期間に合わせ、関東地区自然保護交流会を埼玉県山岳連盟 岳人の家で開催し、坂口顧問、自然保護常任 OB・OG、現役常任、都県山岳連盟自然保委員ら 27 名が集った。第一日目は交歓会を兼ねジビエ料理を囲んで、H25 年の自然保護委員総会の関東地区開催を確認し合った。現役の日山協自船保護委員会常任委員が核となって、温故知新の考え方にのっとり、OB・OG とともに将来の常任候補生（都県自然保保委員）のネットワークを通して、日山協自然保護活動の一層の活性化を図るため開催されたものであるが、H25 年の自然保護委員総会に向け連携の絆を一層のものとした。

第二日目は、体力に合わせ 2 グループに分かれ、武甲山と秩父市内見学を行った。おりしもの少雨で、

武甲山は冷え込みがあったが、午後を回って晴れ間もあり、市内見学組と合流して、秩父の夜祭の見学となった。

この交流会では、平成 25 年度の自然保護委員総会を、関東地区山岳連盟の自然保護委員会で構成する実行委員会形式の運営とすることを決め、具体的な開催地を埼玉県立小川げんきプラザ（比企郡小川町）とすることを確認した。

常任委員会では、広く活動を進めたいとし、各方面との連携を打ち出してきた。山岳団体自然環境連絡会（労山、JAC、都岳蓮、HAT-J、JMGA、山の ECHO、日山協）など外部連携を確立してきたが、今回の交流で日山協における関東地区の連携強化に一步前進したと評価できる。



討議の様子



武甲山登山グループの様子

以上

## 平成 25 年度常任研修会実施報告書

## 1. 実施事業の概要

事業名	公社) 日本山岳協会 平成 25 年度常任研修会
主催	公社) 日本山岳協会 (担当: 自然保護委員会)
主管	日山協 自然保護委員会
開催目的	第 37 回自然保護委員総会の予行演習と実行委員の研修を兼ねた常任委員研修
開催日時	平成 25 年 5 月 18 日 (土) ~19 日 (日)
開催場所	埼玉県立小川げんきプラザ
募集対象	常任委員を含む第 37 回自然保護委員総会実行委員
参加数	35 名

## 2. 実施内容

9月14日～16日に開催予定の「山岳自然保護の集い 中央大会 (第37回自然保護委員総会) 《以下集い》」の予行演習と、大会実行委員の研修を目的として研修会を行った。開催地については常任委員会で選定作業を行い、関東地区の地理的な中心でもあることから、県立小川げんきプラザに決定している。

2日間をかけて行った研修会では、第1日目が会議、第2日目はエクスカーション下見となった。

第1日目では、①施設の確認と利用方法の習得、②「集い」の実施要項の説明と理解、③施設の実地見学と利用検討、④業務分担の検討と確認、⑤山岳自然保護の課題をテーマの討議 (大会討議を実地に演習)。

第2日目は、両神山・長瀬などエクスカーション候補地の下見をグループに分かれ行った。それぞれでは、現地関係者との調整のほか、コースの点検を行った。

第 37 回自然保護委員総会は、名称を「山岳自然保護の集い 中央大会 (第 37 回自然保護委員総会)」とし、関東地区山岳連盟自然保護委員会から推薦されたメンバーで構成する実行委員会が主管する。大会も自然と文化を強調して、「守ろう、伝えよう、山岳の自然と文化」を主題とした。この観点から、大会では一般公開イベントを企画、地元協力による芸能や、東京・神奈川・埼玉の識者による講演を通して、主題を通して山岳自然保護を呼びかけることとしている。



討議の様子



県立小川げんきプラザ前にて

## 自然保護指導員登録の現況報告

### 1) 登録ゼロ団体の解消に向けて

平成 25 年度の状況 5 団体が新規登録（1 団体が更新なしで登録ゼロ）

	平成 24 年度	平成 25 年度
登録ゼロ団体数	19 団体	14 団体

### 2) 総数が減少傾向

	平成 24 年度	平成 25 年度
登録総数	1461 名	1387 名
未更新数	41 名	74 名
新規登録	60 名	80 名

### 3) 腕章・登録証の刷新（平成 25 年 4 月 1 日以降）

日山協の公益社団法人化に伴い、腕章・登録証を刷新しました。

添付資料《次ページ以降》を参照ください。

### 4) 今後の予定

以下を計画中

- a) 魅力ある制度づくり
- b) 指導員手帳の刷新

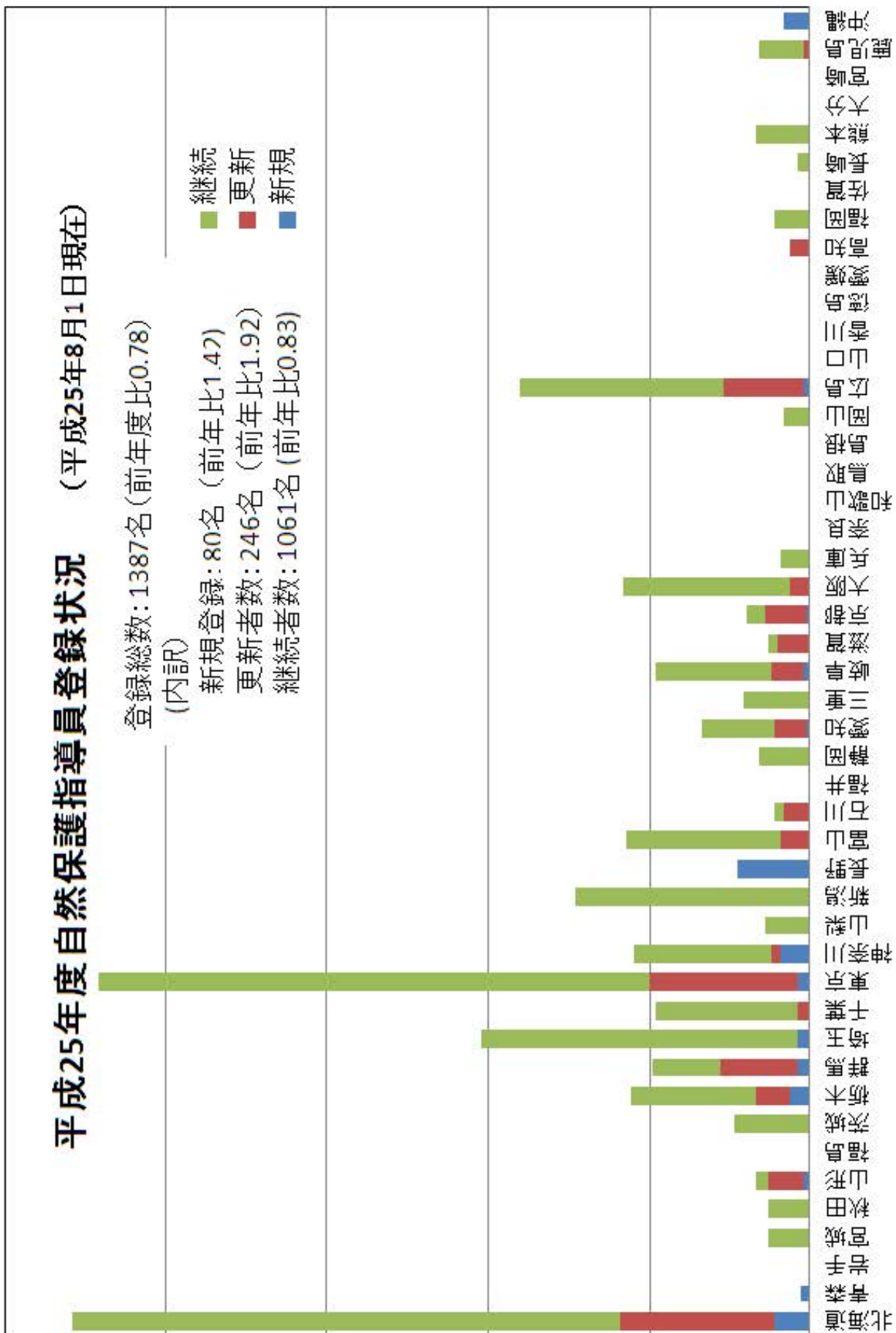


# 平成25年度自然保護指導員登録状況 (平成25年8月1日現在)

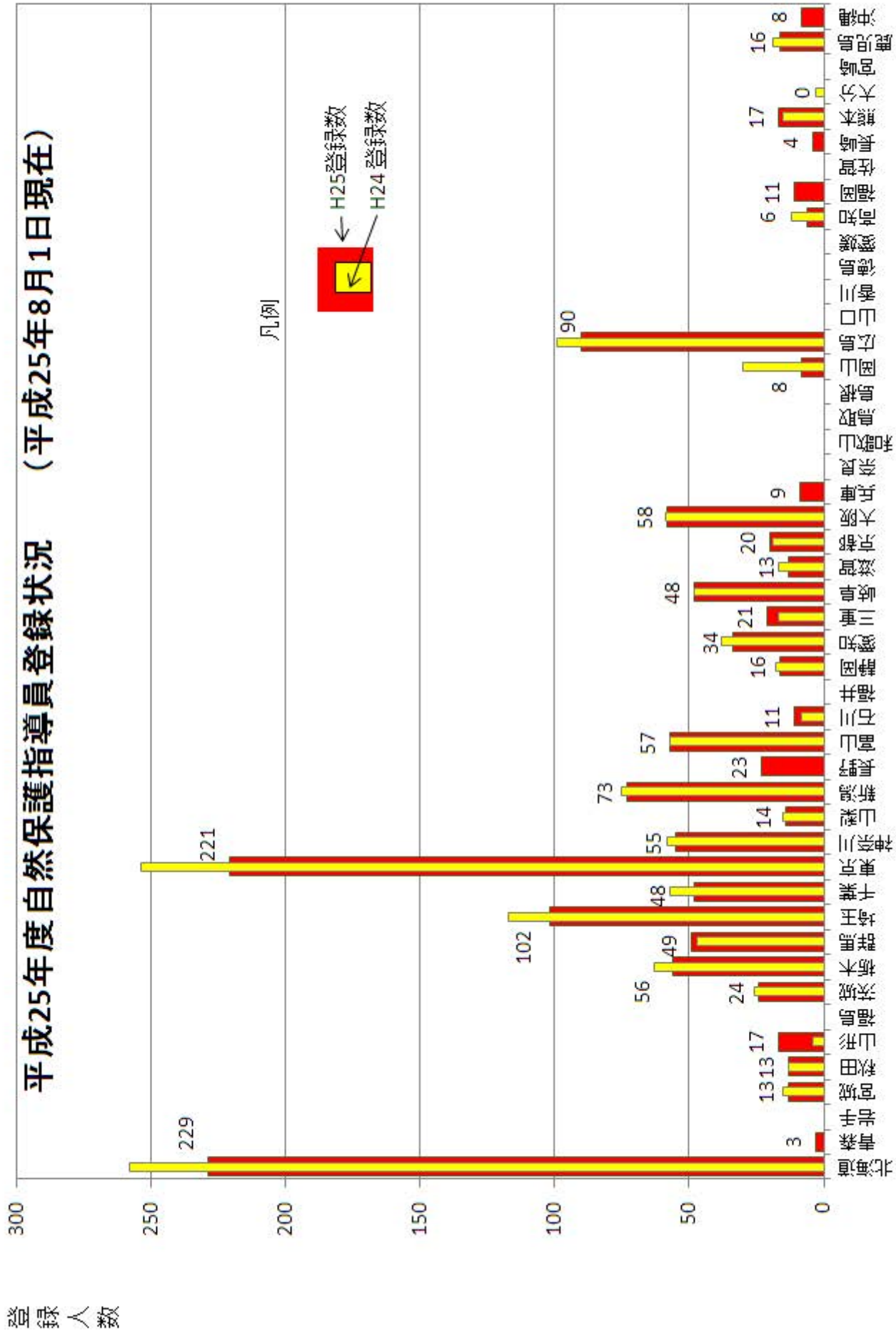
登録総数: 1387名 (前年度比0.78)  
(内訳)

- 継続
  - 更新
  - 新規
- 新規登録: 80名 (前年比1.47)  
更新者数: 246名 (前年比1.92)  
継続者数: 1061名 (前年比0.83)

登録者人数  
250  
200  
150  
100  
50  
0



# 平成25年度自然保護指導員登録状況 (平成25年8月1日現在)



24 日山協自然保護発 007 号  
平成 25 年 3 月 7 日

都道府県山岳連盟 理事長 殿 経由  
自然保護指導員 取扱担当者 各位

社団法人日本山岳協会 自然保護委会  
委員長 石倉昭一 (印略)

自然保護指導員の腕章及び登録証の変更について

冠省

公益社団法人日本山岳協会との改称に伴い、標記を下記の通り変更いたしますので、お知らせします。

草々

記

◇ 変更件

- 1) 自然保護指導員 腕章
- 2) 自然保護指導員 登録証  
(備考)

- ・各変更後の内容につきましては添付資料を参照ください
- ・登録証の氏名にはローマ字表記を追加しています。申請書等の氏名記載にはローマ字表記フリガナをお願いします。

◇ 変更切り替え時期

- 1) 平成 25 年 4 月 1 日以降

◇ 変更切り替え方法

- 1) 平成 25 年度新規登録者については、変更後の腕章及び登録証に切り替え配布します。
- 2) 平成 25 年度更新登録者については、変更後の腕章及び登録証に切り替え配布します。
- 3) 上記該当者以外の希望者については、

有償（腕章＋登録証を含み 2,000 円）にて配布いたします。

発行依頼書に記載いただき、下記宛て F A X ・ 郵送 ・ メール の何れかにて申し込みください。

申し込み先： 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

FAX： 03-3482-2396 PC メール info@jma-sangaku.or.jp

発行料送金先：郵便振替 00110-5-54-693

以上

(添付)

- 1) 自然保護指導員 登録証腕章 (図案)
- 2) 発行依頼書 (新規・更新登録者以外でご希望の場合に利用ください。)
- 3) 新規更新登録申請証 (新規・更新時にご利用ください)



公益社団法人  
**日本山岳協会**

自然保護指導員登録証

**富士 太郎**  
Fuji Taro

登録番号 013245  
登録期限 平成 30 年 3 月 31 日  
発行者 公益社団法人 日本山岳協会  
東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

**留意事項**

次のことに留意し、活動すること。

- 1 この証を携帯すること。
- 2 自然保護の精神に即した登山を示範し、周囲の教化に心がける。
- 3 指導に際しては、相手の人格を尊重し、丁寧な態度で接すること。
- 4 この証の有効は表面に記載の登録期限内とする。

QRコード  
山岳協会の登録情報にアクセスするためのQRコード

登山協携帯サイト

公益社団法人 日本山岳協会

外形寸法 54×85.6  
紙PP コート仕上げ



マジックテープ

# 自然保護指導員

## JMA

公益社団法人日本山岳協会

腕章外形寸法 90×430

# 総合セッション 資料

- 1) 茨城県山岳連盟
- 2) 群馬県山岳連盟
- 3) 埼玉県山岳連盟
- 4) 東京都山岳連盟
- 5) 神奈川県山岳連盟
- 6) 山梨県山岳連盟
- 7) 新潟県山岳連盟
- 8) 静岡県山岳連盟
- 9) 愛知県山岳連盟
- 10) 三重県山岳連盟
- 11) 京都府山岳連盟
- 12) 大分県山岳連盟

おことわり

期日まで送付のなかった資料については  
掲載致しておりません。  
ご容赦ください。

# 茨城県山岳連盟自然保護委員活動報告

2013年8月

茨城県山岳連盟 自然保護委員長 中沢隆一

## 1. 自然保護委員の構成(H25-7/22 時点)

岳連加盟団体 32 団体、自然保護委員 34 名(10 団体、及び個人会員)

## 2. 概況

名峰、筑波山を擁する茨城県は、福島県境の八溝山(1022m)を最高峰に標高 1000m 未満の阿武隈山系と八溝山系の豊かな自然に恵まれ、低山、里山のハイキングから高鈴山系の霊山、御岩山の岩場でのロッククライミング、竜神峡の本格的な沢登りまで幅広い岳人に愛されている。山と溪谷社の分県登山ガイドには 49 コース、50 余の山名が紹介されている。

自然保護委員会では、一般募集の清掃登山を中心に身近な自然に親しみ、自然保護活動に参加して頂ける機会を設け、登山愛好者の自然保護意識の高揚を図ることを重点に活動している。

## 3. 活動報告(昨年度報告以降、H24/7-H25/7)

(H24 年度)

### 1) 身近な水環境の全国一斉調査地点付近の清掃・・・9/2(日) 有志:参加 2 名

那珂川 千代橋下にてゴミ収集、河原全体の散乱ゴミは少なく、半袋程度であったが、バーベキュー行事の残骸が一箇所に大量に投棄されていた。一部の低モラル者と推定され、投棄されたゴミの量から延 15 名以上と推定される。

不燃ゴミ:空缶、ビン類 約 50L、

可燃ごみ:プラごみ、ペットボトル、空袋、空きトレイ、ダンボール、残生ゴミ等 約 70L×5 袋

### 2) 日山協自然保護委員会総会・・・9/8-9(土、日) 有志:参加 2 名

北海道 美瑛町 国立大雪青少年の家、十勝岳、富良野岳

・活動報告

・登山は荒天の為、1 時間程度で下山。

### 3) 筑波山清掃登山・・・12/2(日)一般参加募集:参加 9 団体(岳連未加盟1含む)、合計 104 名

前日の降雪が残り、低温で一部の登山道が凍結していて、難渋した方もいたが、雪景色の晩秋の筑波山を楽しめた晴天の 1 日だった。

A:つつじヶ丘コース 76 名、B:御幸ヶ原コース 28 名

収集ごみ 空缶、金属不燃ゴミ 1、ガラス瓶、ガラス屑 1、可燃ゴミ 4 (1 袋約 30L)

登山道は全体的にきれいでゴミは少ないが、沢筋や遠くに投げて見えにくくする悪質な例があった。

(H25 年度)

4) 神峰山・高鈴山清掃登山・・・4/21(日) 一般募集:雨天中止

5) 茨城県岳連自然保護委員総会(清掃登山散会后)・・・4/21(日) 自然保護委員:雨天中止  
前日からの荒天が止まず、やむなく中止となった。

6) 身近な水環境の全国一斉調査、2 地点で COD、水温を調査・・・6/23(日) 有志:参加 2 名

測定結果 昨年と比較して+1 の変化があったが目視では変化無し。測定ポイントは鮎釣りの名所で釣師の姿が多数見られた。

場所	水温℃	気温℃	COD(1/2/3)回目(mgO/L)
1)那珂川(千代橋左岸橋下)	21	25	-/2/2
2)久慈川(湯の里大橋右岸橋下)	21	25	4/4/5

(今後の予定)

7)9/1(日) 水環境の一斉調査地点周辺水辺の清掃・・・有志

8)9/14-16(土-月) 参加者募集(茨城県山岳連盟推薦者若干名):日山協山岳自然保護の集い  
開催場所:埼玉県小川町

9)12/1(日) 一般募集:筑波山清掃登山

10)日程未定 一般募集:第 52 回全日本登山体育大会茨城大会の登山コース下見時の清掃登山  
(実行委員会の計画とタイアップして実施の予定)

—以上—

筑波山清掃登山写真(2012/12 月)2コースで到着時間に差が出たのでコース毎の記念撮影となった。



## 群馬県山岳連盟 自然保護委員会 活動報告

報告者 副委員長 松本 博

当委員会は、隔月に委員会を開催しています。

そのほかに、総会、忘年会を開いています

清掃登山として、環境省の「尾瀬ごみ持ち帰り運動」や「県のクリーン作戦のごみ拾い」などの事業に率先して参加協力し、谷川岳山開き、県民登山では、参加者にも清掃登山の協力をお願いしています。

群馬岳連の自然保護指導員有資格者は、委員会(11名)も含めて、49名です。この自然保護指導員有資格者は、委員会との連携はなく、更新継続してきました。委員会に属さないため、どのような活動をしているのか全く分からない状態です。今年は、委員会活動の情報を伝え、委員会と指導員の連携を図り、委員会に属さない38名の自然保護指導委員への、働きかけを深め、新しい方向性を検討します。

委員会の大きなイベントが、一般の人を募集して行う自然観察会です。

昨年7月22日 上信越国立公園 村上山(1746.8m)及び鹿沢園地の自然観察会を開催しました。参加者数は、一般参加者24名、岳連及び講師14名 計38名でした。村上山は、モデル事業として人工的に植林されたカラマツ林が多かったが、五葉松の大木やレンゲツツジの群落もあり、鳥類も豊富でした。鹿沢園地は、センターの隣の薬草園で職員の方の解説を聞きながら、1時間の散策を楽しみました。薬草園の草花は、自然に増えたものだそうです。村上山の後の散策だったので、その豊富さに参加者もびっくりしていました。

昨年は、コココーラ清掃登山「赤城山」のサポートに参加し、ガイドとして協力しました。





## 平成24年度 群馬岳連自然保護委員会事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

### 平成24年度重点課題

- ① 自然観察会(群馬岳連ならではの観察会)の実施
- ② 日山協自然保護指導員有資格者の組織化及び連携
- ③ 山岳地自然環境保護活動に必要な事業及び他との連携

日 時	事 業 内 容	会 場
4月10日 (火)19:00	自然保護委員会総会	出席 10名 前橋山岳会例会場
5月8日 (火)19:00	第1回 例会	出席 9名 前橋山岳会例会場
5月27日 (日)9:00	群馬県春のクリーン重点地区清掃活動	出席 8名 榛名湖周辺
5月27日 (日)18:00	群馬岳連総会	出席 7名 上毛会館
6月2日 (土)5:00	尾瀬ゴミ持ち帰り運動	出席 7名 大清水
6月23日(土)・24日(日)	日山協自然保護常任委員研修会	出席 3名 鹿沢・湯の丸
6月30日(土)・7月1日(日)	日本山岳会自然保護全国集会	出席 5名 尾瀬戸倉
7月1日 (日)	谷川岳山開き(安全登山祈願祭)清掃登山	出席 9名 谷川岳土合
7月10日 (火)19:00	第2回 例会	出席 10名 前橋山岳会例会場
7月22日 (日)	自然観察会 (一般参加24名岳連12名講師2名)	出席 38名 村上山・鹿沢園地
9月8日(土)・9日(日)	日山協自然保護委員総会(北海道大会)	出席 4名 十勝岳周辺
9月11日 (火)19:00	第3回 例会	出席 8名 前橋山岳会例会場
9月30日 (日)	群馬山の日、武尊山スカイトレイルラン大会	出席 6名 武尊山周辺
10月21日 (日)	県民登山大会(群馬県秋の環境美化運動清掃登山)	出席 6名 赤城山長七郎
10月27日(土)・29日(日)	日山協全日本登山大会(福井大会)	出席 3名 荒島岳周辺
11月10日 (土)	コココーラ清掃登山サポート	出席 4名 赤城山
11月13日 (火)19:00	第4回 例会	出席 7名 前橋山岳会例会場
11月17日 (土)	日山協自然保護指導員研修(関東地区)	出席 2名 東京労働会館
12月2日 (日)	日山協関東地区自然保護指導員交流会	出席 2名 埼玉岳連秩父山の家
12月12日 (水)	自然保護委員会忘年会(岳連忘年会に合流)	出席 5名 上毛会館
1月8日 (火)19:00	第5回 例会	出席 7名 前橋山岳会例会場
2月2日(土)・3日(日)	関東地区岳連総会	出席 3名 東京都中央区海員会館
3月12日 (火)19:00	第6回 例会	出席 9名 前橋山岳会例会場
	日山協自然保護指導員研修(群馬岳連内)	未実施
	環境省自然公園ふれあい全国大会	不参加

## 平成24年度 群馬岳連自然保護委員会事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

### 平成24年度重点課題

- ① 自然観察会(群馬岳連ならではの観察会)の実施
- ② 日山協自然保護指導員有資格者の組織化及び連携
- ③ 山岳地自然環境保護活動に必要な事業及び他との連携

日 時	事 業 内 容	会 場
4月10日 (火)19:00	自然保護委員会総会	出席 10名 前橋山岳会例会場
5月8日 (火)19:00	第1回 例会	出席 9名 前橋山岳会例会場
5月27日 (日)9:00	群馬県春のクリーン重点地区清掃活動	出席 8名 榛名湖周辺
5月27日 (日)18:00	群馬岳連総会	出席 7名 上毛会館
6月2日 (土)5:00	尾瀬ゴミ持ち帰り運動	出席 7名 大清水
6月23日(土)・24日(日)	日山協自然保護常任委員研修会	出席 3名 鹿沢・湯の丸
6月30日(土)・7月1日(日)	日本山岳会自然保護全国集会	出席 5名 尾瀬戸倉
7月1日 (日)	谷川岳山開き(安全登山祈願祭)清掃登山	出席 9名 谷川岳土合
7月10日 (火)19:00	第2回 例会	出席 10名 前橋山岳会例会場
7月22日 (日)	自然観察会 (一般参加24名岳連12名講師2名)	出席 38名 村上山・鹿沢園地
9月8日(土)・9日(日)	日山協自然保護委員総会(北海道大会)	出席 4名 十勝岳周辺
9月11日 (火)19:00	第3回 例会	出席 8名 前橋山岳会例会場
9月30日 (日)	群馬山の日、武尊山スカイトレイルラン大会	出席 6名 武尊山周辺
10月21日 (日)	県民登山大会(群馬県秋の環境美化運動清掃登山)	出席 6名 赤城山長七郎
10月27日(土)・29日(日)	日山協全日本登山大会(福井大会)	出席 3名 荒島岳周辺
11月10日 (土)	コココーラ清掃登山サポート	出席 4名 赤城山
11月13日 (火)19:00	第4回 例会	出席 7名 前橋山岳会例会場
11月17日 (土)	日山協自然保護指導員研修(関東地区)	出席 2名 東京労働会館
12月2日 (日)	日山協関東地区自然保護指導員交流会	出席 2名 埼玉岳連秩父山の家
12月12日 (水)	自然保護委員会忘年会(岳連忘年会に合流)	出席 5名 上毛会館
1月8日 (火)19:00	第5回 例会	出席 7名 前橋山岳会例会場
2月2日(土)・3日(日)	関東地区岳連総会	出席 3名 東京都中央区海員会館
3月12日 (火)19:00	第6回 例会	出席 9名 前橋山岳会例会場
	日山協自然保護指導員研修(群馬岳連内)	未実施
	環境省自然公園ふれあい全国大会	不参加

# 埼玉県山岳連盟自然保護委員会主催事業報告

平成25年8月15日 岩崎作成

1. 期間 平成24年9月8日～平成25年9月14日
2. トイレ時に使用した便や紙類を埋める道具について
  - ※ 登山行動中に山中で生理現象の処理時の便や紙類を埋める穴を掘る道具として使用する。
  - ※ 装備担当者かSLが登山時持参する。



材質：SUS  
巾：約35mm  
全長：約210mm  
厚さ：1.5mm  
重量：約70g（玉子1ヶ分）

## 3. 活動報告

- 1) 関東ブロック自然保護常任委員懇親会及び武甲山登山と秩父夜祭見学会
  - ・ 期 日：平成24年12月2日～4日 秩父市三峰「岳人の家」
  - ・ 場 所：三峰「岳人の家」及び武甲山登山と秩父夜祭会場
  - ・ 参加者：30名
- 2) 冬の観察会・雲取山登山
  - ・ 期 日：平成24年12月8日～9日
  - ・ 場 所：三峰「岳人の家」及び雲取山観察登山
  - ・ 参加者：15名
- 3) 原木椎茸栽培用木材伐採作業
  - ・ 期 日：平成25年2月23日
  - ・ 場 所：寄居町森下氏所有山林にて
  - ・ 参加者：12名
- 4) 自然保護委員会総会及び講演会・講習会
  - ・ 期 日：平成25年3月30日
  - ・ 場 所：埼玉県立「長瀬：自然の博物館」
  - ・ 講 師：楡井尊氏「自然の博物館・学芸主幹」
  - ・ 講 師：松隈豊氏「(社) 日本山岳協会・自然保護副委員長」
  - ・ 参加者：29名
- 5) 椎茸栽培用原木の切断(750mm)及び三峰「岳人の家」への搬送
  - ・ 期 日：平成25年4月6日
  - ・ 場 所：寄居町森下氏所有の山林⇒⇒⇒三峰「岳人の家」
  - ・ 参加者：13名
- 6) 椎茸栽培用原木への種付け
  - ・ 期 日：平成25年4月19日～20日
  - ・ 場 所：三峰「岳人の家」
  - ・ 参加者：6名
- 7) 神奈川・千葉・埼玉自然保護委員懇親会及び親善登山
  - ・ 期 日：平成25年4月27日～28日
  - ・ 場 所：三峰「岳人の家」及び雲取山登山
  - ・ 参加者：10名
- 8) 清掃登山（小鹿野町：二子山開山式後）
  - ・ 期 日：平成25年4月29日
  - ・ 場 所：小鹿野町：二子山周辺林道及び登攀ルート取り付け点付近の清掃
  - ・ 参加者：約50名（10団体）

9) 埼玉県立自然公園清掃登山

- ・ 期 日：平成25年6月8日
- ・ 場 所：芦ヶ久保駅前（開会式）及び芦ヶ久保周辺の山・県民の森周辺
- ・ 参加者：22団体230名



開会式で挨拶する森下埼玉岳連会長



拾い集めたゴミ



10) 三峰「岳人の家」清掃及びグランド及び周囲の整理清掃

- ・ 期 日：平成25年6月21日～23日
- ・ 場 所：三峰「岳人の家」
- ・ 参加者：12名



⇒草を刈り砂利を引き  
駐車場に使用する⇒



⇒排水溝を清掃すると共に  
通路に砂利を引く⇒



4. その他

※ (社) 日本山岳協会自然保護委員会主催事業への参加

- ・ 平成24年11月17日 東京ラスパホール会議室 約80名参加（埼玉：12名）
- ・ 平成25年5月18日～19日 小川げんきプラザ 32名（埼玉：12名）

平成 25 年 9 月 14 日

平成 24～25 年度東京都山岳連盟自然保護委員会主管  
自然保護指導員活動一覧

(期間 自平成 24 年 9 月 1 日至平成 25 年 7 月 31 日)

実施日	山城・会場・名称等	活 動 内 容	参加人員	備 考
9. 8 ～ 9	日山協自然保護委員 総会（北海道・国立 大雪青少年交流の 家）	各岳連との情報交換 ・年間活動のまとめ ・討議・報告 ①U I A A・U A A A等の国際会議 においても議論の中心となってい る自然保護の日本登山界の果たす 役割 ②若年者・未組織登山者へ山の楽し み方、マナー・モラルの啓もう ③(ヒ)クマの市街地への出没増加 からみる山岳環境の実態把握 ④登山道整備・森づくり ⑤外来生物駆除、稀少生物の保護活 動 ⑥水質・立ち枯れ調査 ⑦携帯トイレ普及活動 ⑧野生鳥獣目撃レポート ⑨指導員増員と活動支援 ほか	84名 委員会・都 岳連より1 0名	○「山はみんなの 宝だ」の大会スロ ーガン決議 ○都岳連自然保 護委員会年間活 動報告等
9. 23 ～24	地学教室 長野県大鹿村	・中央構造線について	7名うち 講師1名	○委員自主講座
10. 21	秋季委員研修会 （五日市旧小宮小学 校）	里山の「生物多様性」 ～鷹の視線から里山を観る	14名 ほか講師 2名	○廃校となった 小学校の自然体 験教室利用
11. 4① 10②	秋の自然観察会下見 （五日市丘陵）	・観察会コースを廻り、参加者に解 説する植物を特定する ・登山道の危険箇所チェック	委員・指導 員延べ19 名	○里山の初秋の 自然の解説法、 指導法の確認
11. 11	秋の自然観察会 （五日市小峰公園）	・里山の秋の植物・樹木解説 ・奥多摩の成り立ち(地質)解説 ・初級登山教室(安全でローインパ クトな山登り) ・山岳写真講座	62名 ほか内部 講師・スタ ッフ 23名	○身近な植物の 「秋の姿」紹介 ○地元で採れる キノコの天ぷら ・味噌汁が好評
11. 17	自然保護指導員更新 講習会	・主に自然保護指導員の更新者を対 象とした机上講習会 ・日山協主催・都岳連主管とし関東 を中心に他県の委員も参加	71名 ほか講師 1名・内部 講師・スタ ッフ21名	○指導員間の交 流を図り今後の 活動の指針とし て日本の山岳環 境保全活動をリ ードする各種団 体の活動を紹介
12. 8	企画会議	・来年度委員会事業の立案会議 啓もう・研修・指導育成・調査各部 の事業計画を検討 ・自然保護指導員を増やし、かつ既 指導員のレベル・スキルをアップを 図り、活動をサポートする事業につ き討議された ・数年経過の各種調査データのとり まとめ、分析、公表等につき継続審 議となった	委員20名	○委員会のHP 等を通じた委員 へのPR活動、情 報発信の重要性 が再確認された

12.15 ～16	雲取山調査(冬季)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲取山荘(蛸殻利用の完全循環型トイレ)、雲取避難小屋のトイレ利用状況調査</li> <li>・樹木の立枯れ・食害調査</li> <li>・スズタケの更新完了</li> <li>・シカ駆除(目標3500頭)に遭遇、生体3頭、捕獲2頭目撃</li> <li>・植林帯の状況調査</li> <li>・登山道の清掃</li> </ul>	3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○花粉症対策で下草が未成熟の樹林を間伐、裸地化した斜面が荒廃</li> <li>○石尾根の食害も更に進む</li> </ul>
平成25年 2. 2 ～ 3	委員会宿泊会議	・企画会議で議論し尽くせなかった2013年度の組織・運営体制、事業計画、今会議に参加できなかった委員からの提案につき討議	15名	○そもそも山岳環境保全とは何かにつき激論が交わされた
2.17	地学教室	・宝登山の蠟梅、白鳥の横褶曲・虎岩前原の不整合、紅廉石片岩	7名うち講師1名	○委員自主講座
3.16	クマの森作り	・五日市市街へクマが出没し殺処分されたことから、森にクマの餌となるヤマグリを植える活動	委員会より3名	○あきる野市レンジャー主宰事業
4.20 ～39	カタクリパトロール (御前山)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクリ盗掘防止</li> <li>・携帯トイレ普及活動</li> <li>・山岳トイレについてのアンケート</li> <li>・カタクリの保護と山のトイレマナー啓もうのためのチラシ配布</li> <li>・登山道の清掃活動</li> <li>・避難小屋トイレ清掃</li> </ul> <p>◎山溪環境省B賞受賞記念事業として御前山周辺のカタクリ群生地 に保護ロープ設置</p> <p>○保護柵をパトロール終了後の5/19まで設置、GWに入山するハイカーも多く非常に有益であった</p> <p>●カタクリの絶対数の減少、生育場の高度化、林床部への移動が顕著のため、惣岳山周辺に加え、御前避難小屋から大ダワ方面、惣岳山頂から奥多摩湖側や体験の森カラマツの広場周辺へ保護柵を延長</p>	委員・自然保護指導員延91名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カタクリ保護柵は効果的だが撮影用スペース欲しいとの声あり</li> <li>○降雨(雪)後、滑り防止のため保護策内歩行や保護柵に掴まる例が目立つ</li> <li>○簡易トイレの普及活動・アンケートに好意的</li> <li>○ゴミは少ない(タバコのフィルター・飴の包紙など)</li> <li>○シカの食害は深刻、花や蕾のないカタクリ多数、早急な対策必要(鹿除けネットは効果的だが景観上問題)</li> </ul>
4月末	自然公園指導員活動報告提出	・年間の活動のまとめと今後の活動指針(調査報告書提出の徹底)	都岳連より21名	○秩父多摩甲斐国立公園中心に指導員の活動領域広がる
5. 5① 11②	春の自然観察会下見 (五日市丘陵)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察会コースを廻り、参加者に解説する植物を確認する</li> <li>・登山道の危険箇所チェック</li> </ul>	委員・指導員延べ15名	○里山の春の自然をどう解説するか、指導法の確認
5.12	春の自然観察会 (五日市丘陵)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山マナーの啓もう活動</li> <li>・春の山野草解説</li> <li>・初級登山教室</li> <li>・身近な食材のテンプラ試食</li> </ul>	51名ほか講師・スタッフ21名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○山野菜のテンプラ好評</li> <li>○内部講師好評</li> </ul>

5.18 ～19	日山協自然保護常任 委員会研修会 (埼玉県立小川げんき プラザ)	・山岳自然の集い中央大会のリハー サル(実際に即応した課題と解決策 を検討。総会でのセッションを想定 し模擬討論を通じ山岳自然保護を 研修する)	31名 うち都岳 連より6 名	○19日はカタク リ保護欄撤収に 合流
6. 2	清掃山行 (高尾山)	・ゴミ袋配布 ・登山マナーの啓もう活動 ・登山道の清掃活動 ・全国一斉水質調査参加 ・ハイキング・カメラ・気象・熱中 症対策ミニ講座 ・「山の日」制定高尾山集会協力	97名 (3コース・ 9班編成)  ほか委員 ・指導員3 4名	○満開のセッコ ク堪能 ○各種ミニ講座 好評 ○企業参加も含 め多数の参加者 あり
6.12	地学教室 箱根	火山地形と生命の星・地球博物館見 学	8名うち 講師1名	○委員自主講座
6.22	春季委員研修会 (五日市旧小宮小学 校)	・「水辺の生物多様性」をテーマに養 沢川上流・中流、秋川下流で水生昆 虫等25種以上を観察	15名 ほか講師 2名	○廃校を利用し た自然体験教室 へ講師依頼
7. 7	自然保護指導員研修 会(実地／横沢入)	・新規指導員研修(資格取得のため の研修会)～自然保護指導員の役割 (心構えと実際) ・指導員の基礎知識として、地勢、 産業と地震、自然と生活、植生と復 元につき講義 ・実地講習として伊那石採石跡地等 を巡り、植生観察も体験	8名 ほか外部 講師2名 内部講師 ・スタッフ 11名	○里山の植生と 棚田の復元につ きその実際を「た んぼの会」に講師 依頼 ○新規指導員希 望者の募集方法 等要検討
7.20 ～21	雲取山調査(夏季)	・コース上の水場の水質調査 ・雲取山荘、雲取避難小屋のトイレ 利用状況調査 ・樹木の立枯れ・食害調査(シカに よる食害は益々深刻、かつてお花畑 であった雲取避難小屋周辺はシカ の食さないマルバダケブキで覆わ れている) ・コース上各所でスズタケの更新完 了 ・登山道清掃	5名	○花粉症対策で 下草が未成熟の 樹林を間伐、裸地 化した斜面が荒 廃 ○石尾根の食害 も更に進む
年間を通 じて実施	主に 秩父多摩甲斐 国立公園	・自然保護の啓もう、自然観察会の 実施 ・登山道の清掃、ゴミ袋の配布 ・ポータブルトイレの普及活動 ・トイレットペーパー使用の呼び かけと使用済みペーパーの持ち帰 り運動 ・御前山・三頭山周辺6ポイントで 水質調査実施(24年度9/30、10/28 、11/25、12/23、25年度 3/104/26・ 29、5/19、6/8、7/6、8/11、年間無雪期 計10回)、 10余年にわたるデータを分析し、ま とめ作業に着手 ・山岳6団体自然環境連絡会に参加 、「トレイルラン」「食害」等の山 岳環境問題を討議、「鳥獣目撃レポ ート」を推進		

以 上

**自然保護活動の概況報告**

平成 24 年～25 年の活動概況について以下に報告します。

**神奈川県山岳連自然保護委員会の状況（平成 25 年 8 月現在）**

H24 年度の自然保護委員数 20 名

**自然保護指導員の状況（平成 25 年 8 月現在）**

表-2 に示す。

表-2 指導員状況

指導員区分	登録数
日山協自然保護指導員	65 名
環境省自然公園指導員	36 名

**自然保護関係表彰**

表-3 の通り、3 件

（本連盟ほか 3 名）

の環境省関係の表彰

を受けた。

表-3 環境省関係表彰

表彰名	日付	被表彰件数
H24 年度 自然公園関係功労者 環境大臣表彰	H24/11/10	1
H25 年度 自然公園指導員功労者表彰	H25/7/10	2

**平成 24 年～現在の自然保自然護委員会の主な活動紹介**

1) クリーン活動

◆丹沢大山クリンピア 21（行政・市民の連携のゴミ持ち帰り運動）への参加

全体事業として行われるクリーンキャンペーンへの協力のほか、ボランティア活動として助成を受け山岳（丹沢山塊）の美化活動を実施。助成を受けた活動の実績を表-3 に示す。このボランティア活動では、神奈川県直営の活動のほか、郡市山岳協会、山岳会、日本山岳協会公認自然保護指導員・環境省自然公園指導員（神奈川県連関係）を包括したものと取り組んでいる。

表-3 活動実績のまとめ（2012-3-1～2013-2-29）

平成 24 年度活動	実施回数	参加者数（名）		回収ゴミ（kg）	
		男	女	可燃	不燃
	77	544	392	1404	317

◆清掃集会

厚木市広沢寺（3 月開催）や足柄下郡湯河原町（2 月開催）で開催の清掃集会へ協力。何れもクライミングゲレンデがある地域で、ゴミ放置などで入域拒否を受けるなど地元とのトラブル（所謂アクセス問題）の解消に向けた清掃ボランティアを行ったもの。この集会本年度で 13 年（14 回目）を迎え、参加数が 127 名と過去最高となった。開催当初は弁天岩周辺のクリーン活動に限られていたが、最近では植樹とか公園整備など幅広い地域貢献をおこなっている。

◆山岳ゴミ処理調整会議

丹沢のゴミ一掃を目的に開催された県主催会議に参加している。この会議での提案に従い、平成 25 年 3 月 9 日、ボランティア 40 名（岳連から 10 名）の協力を得て、塔ノ岳山頂にある「旧日の出山荘」の解体が行われた。解体の廃材は同月 14 日へりにて搬出された。

2) 自然再生活動

◆環境登山

神奈川県山岳連野創立 50 周年の記念事業が発端となって、7 年来継続してきた清掃登山が発展して、昨年からは環境登山と改称し、クリーン活動だけでなく、山岳地（丹沢山塊）の崩落跡の裸地の植生回復を目指した植栽や、荒廃登山経路の補修などを行っている。本年度の第四回環境登山（パート I）は、5 月 12 日を実施した。在来まで秋植えで実施してきた植樹を昨年度から春植えに切り替えケヤマハンノキ 100 本を植栽した。砂防柵工・春植え・防獣ネット敷設などの対策が奏功し、150 本のケヤマハンノキの活着をみた。

◆森林づくりボランティアへの参加

「県民との協働による森林づくり実行委員会」（神奈川県）が行う平成 24 年度定着型森林づくりボランティア活動助成事業の応募事業としてこの活動を平成 21 年から実施しており、今期で 5 年目に当たる。神奈川県山岳連盟はこの活動を社会貢献活動の一つととらえ、登山で培った技術や経験を応用して活動に当たっている。

年間 10 回ほどの活動を行い、延べ 50 名の程度の参加を得ている。活動では、放置され荒れた旧



里山の林地を健全な森林に回復させるため林内の不良立木の間伐や倒木落枝など地表整備を約 30 アール行った。また、伐採木（コナラ）を活用してのシイタケ・ナメタケなど茸の栽培もおこなっている。この作業は 2 年前から始め、今秋には収穫を迎えた。健全な森林作りに研究に合わせ、森の恵の感じる活動と位置付けている。

### 3) 教育・研鑽活動

#### ◆山の自然セミナーの開催

第二回山の自然セミナーを平成 25 年 2 月 16 日 17 日の 2 日間（全コース参加すると 1 泊 2 日）実施した。第一日目に講演、第二日目にエキスカージョンを開催し、講演に 37 名（会員 30、一般 7）、エキスカージョンに 23 名が参加した。

このセミナーは日山協自然保護指導員と環境省自然公園指導員の既得者や同指導員を目指す者などのほか、対象を広げ一般の公募で実施したもので、1 泊 2 日の座学と実地を組み合わせた内容で、第一日目には県環境保全センターの専門職を講師に招き「神奈川県における花粉症対策（樹種の開発）、種苗・育種関係の取組について」と題した講演を、第二日目には自然保護委員を講師に表丹沢県民の森およびその周辺で自然解説など実地研修を行った。

#### ◆日山協自然保護指導員研修への参加

平成 24 年 11 月 17 日、関東ブロック都県山岳連盟から 67 名が集まった第三回日山協自然保護研修会に本連盟から 8 名が参加、研鑽をおこなった。

### 4) 対外活動

◆丹沢大山自然環境再生委員会（官民学連携）、丹沢ボランティアネットワーク（山岳関係団体・環境活動団体連携）など外部団体との協調を図る。）

◆第 1 回（H24）関東ブロック自然保護交流会（秩父市平成 24 年 12 月 2 日～3 日）4 名参加

◆埼玉岳連との自然保護交流会へ 4 月 26 日～29 日を共催、本連盟から 3 名が参加した

#### 活動の課題

##### 1) 財源確保の充実

神奈川県が運営する環境保全関係の助成事業などに応募して得た助成金（補助金）を資金源に活動を行っている。助成に対象の活動は①丹沢大山クリンピア 21（クリーン活動）・②環境登山（自然再生）・③森林づくり（里山再生）の 3 件である。本年度から、公社）国土緑化機構の助成も採択された。また、参加費制で「山の自然セミナー」を運営している。しかしながら、財政的に十分というわけではなく、参加者負担の軽減にはつながっていない。

##### 2) 開かれたイベント、参加への呼び込み

活動の財源や広報）を得て、環境登山・山の自然セミナーでは一般県民を受け入れ、活動の活性化に加え実践的な啓発活動を展開している。23 年度から実施してきたが、リピータを含め参加数の拡大には至っていない。

##### 3) 安全対策の充実

森林再生を行っていることもあって、林内作業特有の安全管理が必須となっている。安全作業の励行を基本として注意を払っているが、保護具装備など個人の負担に依っている。昨年度からグリーンボランティア保険の導入を開始するとともに、助成母体事務局（かながわトラストみどり財団）から作業安全に関する情報を入手配信するなど、活動の安全意識の発揚をおこなっているが十分とはいえない。

（環境登山や山の自然セミナーの野外活動にもグリーンボランティア保険を拡大利用している。）

##### 4) 地域との交流不足

森林再生活動は岳連の社会貢献活動として位置付けており、地域に根付いた活動を目標としている。特にこの種の活動は地権者（多くは民有地管理者）との了解が基本となる。現在のところ行政との良好な関係を維持しているが、地域との交流については十分とはいえない。

神奈川県山岳連盟自然保護委員会活動から



環境登山（10月14日）



森林づくり活動（11月24日）



山の神祭り（1月12日）



山の自然セミナー（2月17日）



山の自然セミナー（2月17日）



森林づくり活動報告会（2月21日）



丹沢塔ノ岳 旧山小屋の廃屋の解体 (3月7日)



地域活動 (3月3日)



植樹活動 (5月14日)



県主催イベントで活動PR (5月26日)



植樹モニタリング (7月10日)

## 山梨県山岳連盟・自然保護委員会活動

平成 25 年 9 月 14 日(土)

山梨県山岳連盟 自然保護委員会

委員長 磯野澄也

当自然保護委員会の活動は岳連山岳会員約 20 名で構成され、奇数月毎に自然保護に関する会議を開催し、発足以来 11 年目で委員会開催は 60 回を数えました。活動は主として ① 5 月～9 月希少高山植物種調査業務のための山岳レンジャー人員配置及び実施 ②山岳レンジャーの研修会及び反省会 ③高山植物現地学習会の実施 ④山岳トイレ研究会:適宜開催 ⑤各種自然保護活動の実施及び参加 ⑥自然保護に関する大会・講演会への参加等です。山梨岳連は小さな県の山岳会の集合体ですが、毎月開催される理事会で各会の横の連携、HP の充実等で意思疎通が図られ、良い成果が出ています。

### 山岳レンジャー活動

山梨県の山岳レンジャー活動は毎年ご紹介していますが、高山植物の保護を目的に昭和 56 年から始まり、平成 20 年の「山梨県希少野生動植物の保護に関する条例」に変更に伴い、希少高山植物種の調査業務へと、より高度な中味の濃い内容となっています。条例で定める絶滅危惧種の希少高山植物指定種のうちキタダケソウを除く 17 種についての調査業務で、定経路調査(規定ルートの定期的調査)と探索調査(広範囲の探索調査)に分けて実施されます。開花が確認される 5 月から 9 月までの期間に 2 人 1 組 1 泊 2 日(或るいは日帰り)基準延べ人数 228 人(実質延べ実数は 300 人前後)によって、南アルプス・八ヶ岳・秩父多摩甲斐の各国立公園・国定公園内、希少種の確認される山城の高山帯を広範囲に実施し、その活動を報告書として纏めその年ごとの経年変化を観測しています。昨年からは亜高山帯まで調査山域を広げたところ、希少種が多数確認され好結果が出ています。

今年度の山岳レンジャー登録は例年並み加盟団体 17 団体 129 名が登録、調査の正確さを期するため研修会を 2 回実施し、うち 59 名が受講しました。終了後は例年反省会を開催し反省点を次年度の調査に変更点として活かしています。より資質を高める意義で高山植物現地学習会を本年度も 3 回実施し、年々高山植物を主体にした各会の山行も増加しています。

### 調査報告書より

新条例から 6 年目を迎え、蓄積された報告書の結果より見えてくるものがあります。指定種の生育地はほぼ確定され、開花状況はその年の前半の気象状況(降水量・気温・日照時間)により微妙に開花時期・状況の変化が見られます。特に近年、地球温暖化による年間平均気温の上昇が著しかったものの、ここ 2 年は異常気象等により降下し年による開花植生変化が見られます。また特記事項報告からライチョウの生息数は少ないものの、毎年北岳・甲斐駒・仙丈ヶ岳で同様な場所で観測され、昨年は多くの確認報告がありました。年間平均気温が低い年は高山帯には残雪があり、そのためかニホンジカ・ニホンザルの高山帯の食害はあるものの、例年より若干少ない報告等顕著に現れます。

## 他山岳地域概況

亜高山帯においても高山植物の宝庫である楡形山では、平成 18 年頃より急激に植生が変化しはじめ、象徴であるアヤマの群落、ホテイツモリ等希少種は食害のためほぼ全滅しました。昨年、より広範囲に設置された防護柵では徐々に回復してきましたが、以前とは様変わりの植生となっています。反面、三ツ峠では平成 22 年に僅かの食害痕に対し、ボランティアグループ：三ツ峠ネットワークを立ち上げ危機感を訴え、町・環境省・諸団体の協力を得て同年から毎年防鹿柵整備を広範囲に設置し防御に成功しました。柵内のもと初夏にはこびるテンニンソウを除去することにより、多数のアツモリソウ他の高山植物が見事に復活しています。

提言①：ニホンジカ対策：ニホンジカ被害は日本全国共通の悩みです。これらに対し行政側でもあらゆる対策を講じていますが、現状追いついていません。将来の日本の自然環境保全のため、抜本的に国主導による早期の駆除及び防鹿柵整備に予算付けの対策を望みます。

### 山岳トイレ整備への提言

公営施設除き民営施設の多い山梨県の高山帯では莫大な費用が嵩むため、隣接県に比べ一部に遅れが目立ちます。委員会内に山岳トイレ研究会を設け、高山帯の隣接県含む 100 ヶ所強の山岳トイレの実態調査を実施分析し、その結果を提言書として 2 年前に県に提出しました。行政の努力のかがいがあり本年度、環境省・南アルプス市の補助を受け北岳肩の小屋のトイレ整備が行われています。小規模施設には山梨県独自の補助金交付要項があり、今後より関係機関と調整し、快適性を求め働きかけていきます。

提言②：山岳トイレ整備：2010 年 6 月環境省行政レビューにより一旦廃止された山岳トイレ整備事業は、山岳環境保全対策支援事業として復活していますが、毎年不安定要素もあります。健康志向ブームで若者の山人口も増えつつあります。これを支える民間山小屋経営事業者にとって山岳トイレ整備は準公共性でありながら莫大な負担が強いられるため、より理解頂き安定的な国主導と共に各都道府県の支援を求めます。

提言③：山岳トイレの利用者負担：山岳トイレは整備されても維持管理費が莫大にかかるため、事業者は曖昧なチップ制は止め 100 円・200 円等料金を定め使用料を取るべきと考えます。登山者のマナーとして利用にはお金がかかる旨周知し、山には小銭を持つことが常識化するよう世論を喚起し、関係山岳団体の連携により広報することを提案します。

### 地域活性化活動 山のスカイツリー：醍醐山(634M)

昨年 5 月、かつては賑わったものの過疎化と共に荒廃し忘れ去られようとした身延町：下部温泉の里山：醍醐山の標高が 634m の山(ムサシ)であることに気付きました。山のスカイツリーとして売り出すべき山梨岳連・地元有志の協力を頂き、同年 7 月に「醍醐山登山道を整備する会」が発足しました。以後、直接・間接 100 名の方々のボランティア活動により 10 月までに 7km の看板含めた登山道整備を行い、見事復活し多くの登山客を迎えることになりました。

これらを維持発展していくため「醍醐山を愛する会」に組織変更し現在は地元・町外含め

170名の会員を擁し、「山と温泉」を合言葉に地域参加型の町起こしの山となりました。活動は登山道定期的整備、醍醐山ブログの開設、醍醐山の歌の創作、オリジナルTシャツ創作販売、機関紙の発行、ポスター・チラシの制作、マスコミへの周知活動等を実施してきました。今後は更に、会員証発行、希少蝶の生育調査、花木の植生調査による学習の森づくり、地元子供達への普及活動、町全体で地域案内人活動、オリジナルグッズの創作、定期的一斉親睦登山の企画、低山だから年配者でも登れる山へのPR活動等、盛沢山の計画を企画しています。

昨年、634mの山で売った山は全国に幾つかあります。大半が行政主導ではありますが、醍醐山は出足が遅かったものの、たった1年間で多くのボランティアの活動により過疎地の山が、今では誰もが知っている話題性を持った一寸楽しい町のシンボルに変容しました。

#### まとめ

山梨県は先般、富士山が世界文化遺産に登録され、新たなる文化含めての山資源として脚光を浴びています。ここ数年の富士山登山ブームは外人客と若い女性が牽引役で、年々増加を辿っています。この要因として山小屋と山岳トイレの改善が大きく寄与しています。この山ガールは一過性でなく年々、南アルプス及び他高山帯にも進出しており、自然を愛する若者の増加を歓迎するところです。反面、オーバーユースによる山岳トイレ問題等も浮上してきております。また近年の健康志向による中高年の登山人口の増加は、高齢化社会を反映し介護予防に大変寄与するもので、結果的に介護・医療費減に繋がるものと思えます。然るに、国立公園の第1条にある「保護と活用」により、行政にはこれらを踏まえたよりバランスのとれた施策を要望する次第です。

山梨岳連の使命は、与えられた素晴らしい山岳環境を後世へ継承すべき、自然保護活動に出来る範囲で今後も一助して行きたいと考えております。

2013年8月23日

新潟県山岳協会 自然保護委員会

## 新潟県山岳協会自然保護委員会活動報告（2012～2013年）

### 1. 自然保護委員研修会

#### （1） 第55回 自然保護委員研修会

期日 2012. 10. 20～21

会場 村上市高根 参加者 34名

講師 赤羽正春氏

内容 シベリア アムール河地方に暮らす少数民族の生活・文化・民俗の紹介、日本文化との繋がり等について

質疑応答では新潟県下の山里で熊、猿の出没が異常に多くなっていることが話題になった

フィールド研修は悪天のため中止

#### （2） 第56回 自然保護委員研修会

期日 2013. 5. 20～21

会場 糸魚川市「雨飾山麓 白池の森」 参加者 34名

講師 猪俣定次氏

内容 マイコミ平周辺の自然と探検、北陸古道、東回り／西回り塩の道について

フィールド研修 戸倉山にて実施

### 2. 新潟県環境企画課自然保護係との懇談会

期日 2012. 11. 14

会場 新潟県庁 出席者 新潟県環境企画課自然保護係 3名  
新潟県山岳協会 4名

内容 県より、新潟県所管の国立公園、国定公園、県立自然公園の整備・改修工事实施状況と今年度以降の計画について報告

県山協より、県内山岳の登山道、施設等の荒廃・破損状況、要望事項の説明

質疑応答

### 3. 他自然保護活動団体との共同、参加

- ・ 飯豊連峰保全連絡会・朝日連峰保全協議会に参加

幹事あるいは会員として、または各加盟山岳会を通じて種々の

実践活動、合同保全作業、会合への参加を行っている

- ・ 巻機山景観保全ボランティアーズの保全作業に参加

#### 4. 自然保護委員としての活動実践への取組み

自然保護の実践活動を行いたいとの自然保護委員も多いが、具体的な活動対象、方法、技術が判らないという声が多い →

このような指導員の皆さんの意志・希望に応えるべく、荒廃の進み始めている近場の山岳を実践訓練のフィールドとし、登山道修復等の方法、技術を学びながら自然保護の実もあげるとの活動を計画

- ・ 具体的には7月、栗ヶ岳において、松本 清氏においで頂き、中央登山道にて予備調査を行った

今後、この調査報告を基に活動方向を探り、地元山岳会等との共同で今後の活動を計画していきたい

#### 5. 一般登山者への啓蒙活動

一般登山者に山岳自然の荒廃状況を知ってもらい、その保護の必要性を訴えるため2011年に講演会を実施したが、今年も自然保護委員研修会を兼ねた講演会を計画している

期日 2013年11月17日

会場 長岡市

内容 山岳自然の荒廃現状、荒廃原因、対策等の講義

これに加え、今年は、一般登山者の遭難事故増加の現状を踏まえて、山の遭難事故防止のための基本知識、装備、技術、山岳会への加入必要性を訴える講義を行うことを計画

以上



# 「静岡県山岳連盟における自然活動状況」について

静岡県山岳連盟 自然保護委員長

## 1、活動母体

### (1) 指導員等

環境省自然公園指導員（県岳連内） 14名、静岡県立自然公園指導員43名、静岡県環境保全管理員 17名。日本山岳協会自然保護指導員 15名、静岡県高山植物指導員 383名

### (2) 南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク

構成・・・NPO法人日本高山植物保護協会静岡支部、静岡県山岳連盟、静岡市山岳連盟、井川山岳会、静岡県高体連登山部、(株)東海フォレスト、静岡県勤労者山岳連盟

## 2、活動報告

### (1) 富士山

6月ユネスコ世界遺産への登録を果たした。現在まで、静岡県は山梨県と共同で種々の環境整備を推進してきた。

また、登録を期に登山者が増え色々な施策推進と意識改革が必要になる。

### (2) 南アルプス

高度差の大きい雄大な山脈、可憐な美しい高山植物の姿等、百名山を目指して、一般・単独・グループ、中高年の女性が多いツアー登山が増えている。

### (3) ボランティアネットワークの活動

①ニホンシカの食害対策として防鹿柵を茶臼岳、聖平、荒川カール、三伏峠に設置及び補修、三伏峠・奥聖岳に植生保護のロープ柵の設置、防鹿柵内はニッコウキスゲが見られ生き返っている。

②昨年は二度の台風による表土流出があり、防止のための丸太柵工やその補修、ヤシ製マット敷設を聖平・塩見岳・三伏峠に実施した。

③高山植物保護の木道を聖平・光岳のセンジガ原・茶臼へ設置し植生が生き返ってきた。

④ニッコウキスゲの植栽実験

⑤高山植物保護の啓発看板を登山口や小屋前広場に設置しアピールしている。

⑥県立自然公園指導員と高山植物保護指導員を対象に、年2回研修会と情報交換を行っている。事業報告や専門家の講演は大変参考になる。

⑦南アルプス中南部の避難小屋を含む15の小屋のトイレ10ヶ所は、水洗やバイオ式である。なお、三つの避難小屋ではへりで降ろし処理している。

⑧7月13日から9月1日までの間、畑薙臨時駐車場に夏山登山相談所を開設し、静岡県山岳連盟と地元井川山岳会の会員が登下山届の提出と自然保護指導を行っている。

### (4) その他

①最近特に富士山南部で鹿・カモシカ・イノシシが、伊豆で鹿が増え、高山植物や山村では、野菜等が荒らされて非常に困っている。

②二軒小屋の少し北の地下400mをリニヤが通るため、工事による環境調査と橋梁等の準備工事が始まった。

## 愛知県山岳連盟自然保護委員会活動報告

愛知県山岳連盟自然保護委員会

委員長 杉本 三郎

対象期間 2012年9月～2013年8月

### 2012年

- (1) 10月14日 第32回自然観察会 伊吹山 参加者9名
- (2) 11月3日 第1回鈴鹿山系連絡協議会 1名派遣
- (3) 11月13日 第2回自然保護委員会 出席者8名

### 2013年

- (4) 2月14日 自然保護委員総会 出席者10名
- (5) 5月18日 第33回自然観察会 猿投山 参加者8名
- (6) 5月25日 伊吹山頂上西洋タンポポ除草作業 3名派遣

以上

三重県山岳連盟自然保護委員会活動報告 2012 年度

自然保護委員長 橋本介何

(1) 自然保護指導員募集

5月～6月末日 日山協自然保護指導員募集  
 申込者1名・・・桑名山歩会・・・佐藤博正氏

(2) 鈴鹿山系根の平峠付近の一斉清掃

5月27日(日)・・・各会より50名参加(四日市西警察者より7名参加協力あり)  
 山仕事小屋跡があり缶、瓶など不燃物が軽トラックいっぱい集まる

(3) 自然保護月間清掃登山実地(10月～11月各山岳会にて行う)

山岳会	実地日	人数	山域	内容
津峠の会	10月27日(土) 	7名	経ヶ峰	平尾大谷林道奥Pから山頂へ(登山者が多く利用する登山道)、高座原コース分岐 天神池巡りコース分岐Pへのコース約30ℓ(瓶、缶、弁当のカラ飴の袋)
五目山岳会	11月4日(日) 		竜ヶ岳	金山尾根コースの立木、立ち枯れ等の取り除き整備
津ラネージュ山岳会	 11月11日(日)		池の平～亀山峠付近	飴の袋、コーヒー缶が少々
みえ溪同人	10月14日(日)	7名	朝明茶屋～ハライド山頂腰越峠～腰越谷	アメ、菓子等の包紙、スーパー袋、コーヒー缶軍手、ペットボトルなどポリ袋1個分
松阪山岳会	11月19日(月)	12名	堀坂山登山道補修整備	(丸太材料切り出し)
ひさい山岳会	11月18日(日)	15名	網掛山	登山道は良く整備されていて飴等の包紙を少し回収した。
四日市山協	11月21日(水)	御在所岳中道～裏道) ペットボトル2本ビニール袋		
松阪山岳会	12月15日(土)	33名	堀坂山登山道補修整備	



根の平峠清掃活動



平成25年度  
＜報告＞ 自然保護活動状況

京都府山岳連盟 自然保護委員会

平成25年度 活動

- (1) 「京都府下一斉清掃登山大会」(「京都府山岳連盟主催 自然保護委員会主管」)  
の実施内容の見直し
  - 1 担当コースの取り替え(全17コース・27団体参加)
  - 2 京都府北部・南部のコース設定(府下一斉の趣旨徹底)
  - 3 その他(不法投棄の大量のゴミ処理の問題あり).....平成25年6月2日(日)実施  
総数約600名参加 京都府・京都市・各市町村の協力を得て、  
京都府下のハイキングコース・登山道を一斉に清掃した。  
収拾したゴミの量=約1.5t
- (2) 他府県自然保護委員会との連携
  - 1 近畿自然保護委員会協議会への参加
  - 2 近畿山岳連盟総会自然保護委員会の部への参加
  - 3 (社)日本山岳協会自然保護委員会総会への参加.....日山協 自然保護委員会総会 9月14日(土)―16日(月)  
埼玉小川げんき村 総会&エクスカーション(両神山)
  - 4 その他(各種自然保護運動団体との連携).....「近畿自然保護委員会協議会」は今年10月開催予定
- (3) 京都府山岳連盟・自然保護委員会としての自主的な取り組み
  - 1 自主的な研修会を年間を通して実施  
観察会コース(主に京都一週トレイル・コースの使用、新たに深草トレイル・  
コースなど)での下調べや自然保護に関する緊急の問題に対して対応するべく、  
自然・歴史・環境に関する総合的な自主研修を実施中.....①4月9日(火)「アユモドキの生態」研修会  
於滋賀県立琵琶湖博物館  
②5月19日(日)「亀岡アユモドキの生態」  
於JR亀岡駅改札の出口前9:50集合  
③7月14日(日)比良山・八雲ヶ原の土砂流出による斜面崩壊の現場を  
「八雲ヶ原を守る会」代表の松下氏の先導で踏査。
- (4) 「自然観察会」・セミナー・講演会等の実施
  - 1 一般府市民の参加を促す野外での「自然観察会」・セミナーなどの実施
  - 2 シカの食害や、カシナガの解説、東山の森の変化の様子、京都府下の山の自  
然の紹介などを一般市民に対して行う。
  - 3 子供たちが山の自然に親しむ機会を作る  
特定の小中学校など(との連携による里山を知る活動は実施中)はもちろん、  
新聞による公募などで、さらに小学生と保護者を募って、現場での自然に親し  
む機会を作っていく(1) 9月22日(日)「自然観察研修会」(花脊峠―寺山峠間)  
自然保護指導員による自主研修

- (2) 10月20日(日)「植物(きのこ)観察会」 花脊峠付近  
講師佐野先生  
一般対象の公開観察会
- (3) 12月1日(日)紅葉観察会  
一般対象の公開観察会
- (4) 2月17日(日)野鳥観察会  
一般対象の公開観察会
- (5) 3月23日(日)地質観察会  
一般対象の公開観察会

## 平成25年度 年間実施予定

- 1月28日(月)自然保護委員会(以下 委員会)
- 2月27日(水)委員会(清掃登山大会一コースの調整他)
- 3月12日(火)委員会および反省会
- 4月9日(火)「アユモドキの生態」研修会  
於滋賀県立琵琶湖博物館
- 4月17日(水)委員会(清掃登山の準備)
- 5月14日(火)委員会(清掃登山の準備)
- 5月19日(日)「亀岡アユモドキの生態」  
於 JR 亀岡駅北口の現地踏査  
(亀岡市の専門家の説明による案内および講義)
- 6月2日(日)「京都府下一斉清掃登山大会」(「京都府山岳連盟主催 自然保護委員会主管」)
- 6月11日(火)委員会
- 7月9日(火)委員会
- 7月14日(日)比良山・八雲ヶ原の土砂流出による斜面崩壊の現場を「八雲ヶ原を守る会」代表の松下氏の先導で踏査。
- 8月8日(火)委員会
- 8月27日(火)研修会
- 9月10日(火)委員会
- 9月22日(日)「自然観察研修会」(花脊峠一寺山峠間)  
自然保護指導員による「きのこ観察」自主研修
- 10月8日(火)委員会
- 10月20日(日)「植物(きのこ)観察会」 花脊峠付近 講師佐野先生  
一般対象の公開観察会
- 10月後半 土日 「近畿自然保護委員会協議会」(大阪担当)
- 11月前半 土日 「近畿岳連総会」
- 11月12日(火)委員会
- 12月1日(日)紅葉観察会 一般対象の公開観察会
- 12月10日(火)委員会
- 1月21日(火)委員会
- 2月4日(火)委員会
- 2月17日(日)野鳥観察会 一般対象の公開観察会
- 3月11日(火)委員会
- 3月23日(日)地質観察会 一般対象の公開観察会

以 上

文責 山本憲彦

## 2013年 自然保護活動報告

### 大分県山岳連盟

当岳連が主として取り組みを行っている活動は、くじゅう山系におけるミヤマキリシマの保全に関する活動である。



くじゅう山系におけるミヤマキリシマは、全山がピンクに染まるといっても過言でなかったところに比べ、植生遷移の進行等により生育数の減少がみられる。

(2013年6月 平治岳)

自然保護については多様な考え方があるものの、当岳連としては、ミヤマキリシマの群生地を保全し、かつ、生育環境を改善することにより生育範囲の拡大を計ることを目的として、生育の阻害となる「ウツギ」などを除伐する活動を行っている。



5月に平治岳山頂付近での除伐活動を実施し、10月には扇ヶ鼻周辺で実施する予定である。

除伐による生育環境の改善は、長いスパンを要する活動であるため、長く細く実施していきたいと考えている。

なお、この活動にアサヒビール株式会社の環境保全に係るプロジェクトから支援を頂いたことに対して、この場をお借りして感謝申し上げます。

モーニングウォーク

資 料

## モーニングウォーク

朝目覚めの早い方で、すがすがしい空気を吸いながら、関東地方の里山の森林・樹木をかんさつしてみませんか。

此処の森林は、観察の森として管理されていますので、よく手入れ出来ていると思いますが、植生の様子などについて、参加者の皆さんの地域との管理の違いなど、話しながら目覚ましをしましょう。朝飯がおいしくなりますよ。

**開催** 8月15日 6:00~7:30

**集合** 6:00 げんきプラザ本館玄関前

**対象** 希望者（自由参加）

**案内者** 廣田委員、紅葉委員

**コース** コースは太い黒線の部分を歩きます。本館前に6:00に集合ください。途中から引き返すこともできます。軽い気持ちで参加してください。植物観察のコースも設定してお待ちしています。





# 個別セッション 資料

- 1) 課題A 利用者ふたん・受益者負担
- 2) 課題B 資源・自然疲弊
- 3) 課題C 自然保護指導員の役割について

## 個別セッションA 「利用者負担・受益者負担」

一旦はなりをひそめた感のした、入山料(利用者負担・受益者負担)の話題が富士山の世界遺産登録を機に一気に再燃してまいりました。

自然保護常任委員会でも、かつて乗鞍五色ヶ原や福井赤兎山での入山料徴収先進地の実情調査視察研修を実施してまいりました。

尾瀬でも再燃しそうな状況です。

こうした中、岳人としての私たちの意見の交換の場を設定しました。

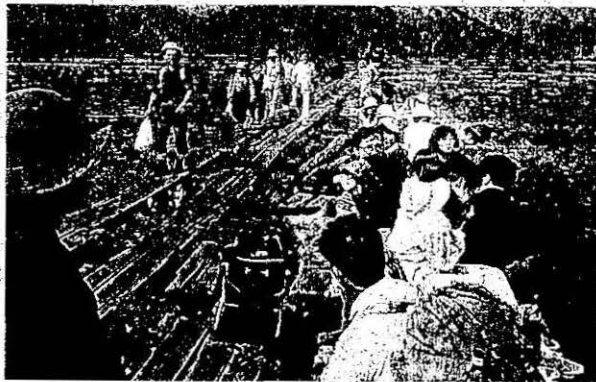
たいへん身近な問題です。皆さんの活発な発言を期待します。

富士山入山料 425.8.8 (毛)  
**3万4000人支払い  
10日で3400万円**

世界文化遺産の富士山で7月25日に始まった入山料の試験徴収が3日で終わり、山梨、静岡両県は、10日間で徴収に応じたのは3万4327人で、金額は計3412万9822

円だったと発表した。両県は午前9時から午後6時まで、四つのルートの登山口付近に集金箱を置き、1人千円の「富士山保全協力金」の支払いを呼び掛けた。吉田口では7月26日に登山道をコースとするマラソン「富士登山競走」が開かれたため、26日だけ午後1時から実施した。

入園料制度が打ち出された当時の尾瀬ヶ原。この年の入山者数は46万8000人。1996年まで増え続けた—89年



## 反発強く難航予想

**元年** 環境庁(当時)は国立公園で入園料を徴収する方針を固め、第1号に日光国立公園(当時)の尾瀬湿原を予定していると報じた。入園料は浄化槽や排水施設、公衆トイレの維持管理などに充てる計画で、群馬、福島、新潟の3県の関係自治体と近く協議するという内容。国民の財産である国立公園で受益者負担を求めるとは、入山制限につながるなどの反発が強く、難航が予想されると伝えた。(7月12日付)

であることは変わりなかった。「小屋が先頭に立って、保全対策に取り組まなければ」と萩原さん。生活排水を少しでも減らそうと、小屋組合は同年4月に風呂休止日を導入、93年から小屋の定員を減らし完全予約制にした。数十万円をかけて95年までに各小屋に合併浄化槽が設置された。96年の64万7500人をピークに入山者は減り続け、ここ数年は約30万人で推移している。環境負荷の

問題は「オーバーユース」から、入山者が特定の時期に集中したり、入山者の大半が鳩待峠口を利用する「偏在」に変質した。偏在を緩和しようと、県は2011〜13年度、清水口の水口車両通行禁止区間で低公害車を運行したり、鳩待峠への車両乗り入れを制限する社会実験をした。県

尾瀬保全推進室の須藤雅紀室長(54)は「特定の時期や場所にかかる負担を分散し、尾瀬の多様な魅力を楽しんでもらうきっかけになれば」と期待する。「自然保護のトップランナー」と称される尾瀬は、「保護」と「利用」の最適なバランスを今も探し続けている。(尾瀬支局 吉田茂樹)

日曜日掲載

# 平成 今昔 ⑮

四半世紀を経て

国立公園有料化の第1弾に。1989(平成元年)7月。環境庁(当時)が、日光国立公園(同)の尾瀬湿原で入園料を徴収する方針を固めたことが新聞報道で明るみに出た。

## 尾瀬で入園料構想

国立公園を訪れる人が増え、生態系を乱すほどの過剰な入り込みが問題化。汚水対策が不十分なため、異常に葉が大きい「オバケミズバショウ」が発生していた。尾瀬が対象にされた。受益者負担で、浄化槽や排水施設、公衆トイレを維持管理する計画だった。「お金を払っているんだから」と人任せになり、みんな尾瀬を守るという意識が変わってしまう恐れがあった。だから絶対反対だった。富士見小屋を経営する

萩原始さん(78)「片品村は当時を思い起こす。突然わき起こった議論に、清水一郎知事をはじめ、片品村や福島県檜枝岐村の議会が反対を表明。内閣法制局が「環境庁に土地所有権がなく徴収の義務づけは困難」との見解を示し、方針は90年1月に撤回された。しかし、汚水対策が急務

# 保護と利用 模索続く

**今** 尾瀬ヶ原を散策するハイカー。特定の時期に入山者が鳩待峠に集中することが課題になっている



## 「個別セッション」 課題・「資源、自然疲弊」

地球温暖化による、気候の変動、高温、多雨、豪雨、洪水、干ばつ、など、世界的な規模で様々な変化が起きております。海水面の上昇、ヒマラヤなどにある氷河が溶けて出来る氷河湖の洪水による決壊危険箇所など。我が国、日本においては、原発事故による、今までに経験もしたことが無い、放射能汚染問題、この様な厳しい現状に置かれていることは皆様もご承知のことと思います。

生物多様性の喪失が心配されている現代で、人間を取り巻く様々な環境の変化に対応し、考慮しなければならないのは、我々、人類の義務であると思います。身近な所からでも、糸口がほどけ、改善されることを願っております。

各、山岳連盟さんでも、農作物、山林、高山植物、森林の植生を荒らす被害が問題となっている、ニホンジカの事は苦慮していることと思います。

平成23年度、北海道を除く全国で、250万頭いる鹿が12年後には2倍近い500万頭までに増えるという推計値を環境省が出しましたが、被害の深刻化を防ぐためにも、早急な対策を検討していただきたいと考えて居ります。

### 「山の問題」

- 1、 高山植物の疲弊(気候変動・獣害問題・鹿の食害)
- 2、 オーバーユース(水源の汚染、トイレ問題・登山道の疲弊)  
トレイルラン(環境の悪化と登山道の崩壊)
- 3、 その他

### 「山の自然・保全・保護」

- 1、 ボランティア活動(個人・団体・民間募集)
- 2、 登山道などの補修活動
- 3、 植生の保全、保持、保護
- 4、 その他

(個別セッション課題C)

## 自然保護指導員の役割について

公益社団法人日本山岳協会に登録された自然保護指導員は、自然保護憲章を尊重し、登山者の立場で自然環境を永く後世に引き継いでいくことを目指し、その保全と保護を推進するための活動を行うことになっています。

役割は 自然環境保全の指導、啓蒙に関すること  
自然環境の促進に関すること、と規定されています。

- 1、日頃の活動場所と指導内容について
- 2、活動するのに支障を感じる事項について
- 3、自然保護指導員を増員する必要性について
- 4、自然保護と登山者のマナーに対する指導について

参考

自然保護憲章（抜粋）

自然をとるとび、自然を愛し、自然に楽しもう。

自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。

美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

## 自然保護指導員の活動について

(新たな活動への方向転換への提言)

### 1) Conservation から Mountain Protection へ

日山協会定款 抜粋

#### 第2章 目的及び事業

##### 【目的】

第3条 この法人は、わが国の登山界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として、安全登山と**環境および山岳文化に配慮した登山の普及振興**を図り、もって国民の**心身の健全な育成**に寄与することを目的とする。

##### 【事業】

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 登山の普及振興
- (2) 山岳スポーツに関連する競技会等の開催
- (3) 山岳スポーツの競技力向上及び普及
- (4) 登山及び山岳スポーツに関連する指導者及び競技運営員の養成及び資格認定
- (5) 山岳遭難の予防と遭難対策に関する調査研究と指導及びこれに付随する事業
- (6) **山岳自然環境保護の推進**
- (7) 海外登山の啓発及び指導と国際交流
- (8) 事業の推進に資するため、物品等の販売事業
- (9) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 前項の事業については、本邦及び海外において行うものとする。

委員会は、公益法人として、社会にどの様に貢献して行くか、統括団体として加盟団体（47都道府県+アルファ）に向けどの様にリードして行くかの点で、責任と義務が生じることになる。

日本山岳協会は登山とスポーツクライミングを両輪としているが、我々の活動の主軸は登山で、山岳自然を専らの活動フィールドにしている。よって、山岳自然が健全に将来に受け継がれることが登山を普及振興させる重要な要素であることは言うまでもない。定款にある「山岳自然の保護の推進」ともに、団体の目的とする「国民の心身の健全な育成」面から、「山岳自然とのふれあい」とか「山岳自然の上手（適正）な利用」といった面があいまって、山岳自然保護の分野での活動が進められるべきである。

自然公園法の目的に、「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。」とあり、自然環境の保護と利用の両立を謳っている。このことから、山岳という自然フィールドを持続的に利用してその恩恵を享受しようとする登山団体にあっては、保護と利用の両面が一体的に求められるのである。

日本山岳協会が加盟する国際的組織の動きも決して見逃がせないところである。スポーツクライミングがIFSCに分離独立（2007年）して、UIAAは登山に特化した国際団体となっている。この2つの国際組織に対し、両方に加盟して登山とスポーツクライミングの両方を標榜する各国団体が多く、日本山岳協会もそのひとつである。自然とか環境の視点でこれら2つの団体をみても、UIAAにMountain Protection Commission (MPC) との名称の委員会がある。

我々は、登山者として山岳自然の利用者の立場で、保護と利用の両面に立って、山岳自然の環境的課題を配慮した活動を推進して行くべきである。

## 山岳自然の課題を挙げると

- 1) 生物多様性の衰退  
(森林破壊・過放牧・過度な焼き払い、動物種・浸食による表土流亡や植生・山岳地の原生の減退)
- 2) 地上景観の異常変化  
(採鉱・水力発電・道路・鉄道・鉄塔・通信塔・スキー場・観光開発に伴う施設)
- 3) 気候変動と公害  
(水質汚染・空気汚染・騒音公害、トイレなど)
- 4) ダメージを受けやすい地域の過剰利用  
(観光を含む入域者の増加に伴う自然の劣化)

## 日山協の山岳自然保護活動—自然との共生をめざして

日本山岳協会では自然保護委員会のもと、山岳自然保護の重点活動として、自然保護指導員制度を運営している。

この自然保護指導員制度は、もともと環境省で行っている自然公園指導員制度の民間活動版として日本山岳協会が昭和 61 年（1986 年）から実施してきたものである。環境省の自然公園指導員は自然公園法を適用される自然公園（国立公園、国定公園、都道府県立自然公園）を活動地域としているところ、日本山岳協会の自然保護指導員は特に定めるところがなく国内の登山の対象となるあらゆる山岳地で活動が行われている。

昭和 41 年に「自然公園指導員」と改称された環境省の指導員制度ではあるが、昭和 50 年 6 月の環境庁（当時）にて自然公園指導員増員に伴う会議で日山協は 30 名の割り当てを受けていたところ、増員を申し入れたが「山岳関係者の熱意はありがたいが、他関係機関との均衡上増員枠はない」と回答をうけたことから、昭和 54 年度の委員総会から日山協として、全国的に統一した指導員制度を設けるべきとの要望もあり、委員会としては制度の制定にむけて検討に入っていた。各岳連のなかには独自で指導員を認定し活動しているとの報告もあった。環境庁の回答をうけて、日山協独自の指導員制度を採用するべきとし、昭和 61 年 4 月 1 日付「自然保護指導員規程」を理事会で承認をうけ施行されることとなった。

## 先輩から継承された制度：自然保護指導員制度

自然保護指導員制度は、公益社団法人日本山岳協会における山岳自然保護に向けた特筆すべき制度である。この制度について、自然保護指導員規程から次の通りとなっている。

### 第一条

社団法人日本山岳協会（以下日山協という。）は自然保護憲章を尊重し、登山者の立場で山岳自然を永く後世に引き継いでいくことを目指し、その保全と保護を推進するため自然保護指導員（以下指導員という。）の制度を設ける。

### 第二条

指導員は、次の何れかに該当する者のうちで都道府県山岳連盟又は山岳協会（以下所属岳連という。）会長が推薦し、日山協会長が認定・登録した者とする。

- 1) 財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者（山岳）
- 2) 自然観察等に造詣が深く、山岳自然環境保全のため指導又は啓発活動ができると認められる者。

## 自然保護指導員の規約以外に期待される役割

- 1) 山岳自然とのふれあい（インタープリテーション）
- 2) 山岳自然への興味や関心の誘引（啓発活動）
- 3) 活動への参加の誘い（連れ出し）

## 山岳自然での活動領域

### 1) 行動が伴う活動（筋肉的・精神的）

筋肉的：登山道補修・クリーン活動（ゴミ拾い、持ち帰り、トイレ）

自然再生（植樹・植生保護）・調査（モニタリング、フィールドデータの収集）

精神的：研修（セミナー）・学習（自己研鑽）・啓発（PR・デモ）・

提唱（ローインパクト登山）

### 2) 山岳自然に対する学習や知識がともなう活動

技術的：登山道補修技術など

文化的：民俗文化、自然科学（植物学・動物学、気象学）

### 3) その他（他の区分と境界的）

山岳自然を永く後世に引き継いでいく—— アクセス問題

## これからの自然保護指導員制度

1) 自然保護指導員の位置付け・レベルアップ（価値と魅力の向上）

2) 資格制度との連携（CONE など公的資格との連携）

3) 活躍機会の増進（若年層に向けた活動、ふれあい活動などへの領域拡大など）

4) 行動する活動の掘り起こし（山を守る活動とは何か、精神的でなく肉体的な努力を求めて）



## 公開イベント

### 資 料

- 1) (芸能) 小鹿野子ども歌舞伎
- 2) (講演) ツキノワグマを通して見た山岳自然について
- 3) (講演) 知知夫国と嶽(たけ)やま(武甲山)
- 4) (講演) 「山はみんなの宝」憲章制定の経緯  
皆さんへの期待と今後の展開

## 小鹿野 子ども歌舞伎

### 概要

小鹿野町（おがのまち）は埼玉県秩父郡にある町です。埼玉県の西部に位置し、秩父盆地のほぼ中央に市街地を形成しています。中心部の小鹿野地区は県内でもいち早く教育・交通・産業の振興など各分野で近代化が進められ、西秩父地域の中心地として発展してきました。町域の西側は日本百名山の両神山を中心とした秩父多摩甲斐国立公園がひろがっています。

小鹿野歌舞伎の創始はおよそ200年前、初代坂東彦五郎が江戸歌舞伎をこの地に伝えたのが始まり。常設の掛け舞台での上演はもちろん、祭り屋台（山車）に芸座・花道を張り出して演じる「屋台歌舞伎」が大きな特長です。役者・義太夫・裏方にいたるまで、スタッフのすべてが地元衆。町内の祭りに奉演される年間6回の定期上演のほか、日本各地で行われる訪問公演は、常に大きな喝采をあげ、「歌舞伎のまちおがの」の名を全国に響かせています。

### 演目の紹介

さんになきちさとえのしらなみ おおかわばたであいのぼ  
「三人吉三巴白浪 大川端出会之場」

『三人吉三巴白浪』は、安政七年(1860)、河竹黙阿弥が書いた世話物(江戸時代の町人社会に取材した歌舞伎)の傑作です。「三人吉三」はいずれも吉三郎という名の三人の盗賊が主人公となり、

百両の金と「庚申丸」の短刀をめぐるおこる複雑な人間関係を描きます。七幕十四場という長い物語は金と短刀をめぐる因果応報の末に三人が刺し違えて死ぬところで幕となります。

### あらすじ

「大川端出会之場」では、節分の夜、大川（墨田川）の川端の庚申塚で、ひょんなことからお嬢吉三は夜鷹と出会い、川に突き落とし小判百両を奪います。そこで「月もおぼろに白魚の…」の名せりふをうたいあげるように語ります。そこにお坊吉三が現れ、その金をよこせと無理を

言います。斬り合いをはじめた三人に割って入ったのは和尚吉三でした。和尚は二人を仲直りさせ、三人は意気投合、「三国志」の「桃園の誓い」の故事にちなみ、梅の木の下で三人義兄弟の契りを結びます。

### 配役

お嬢吉三	飯塚 光留	小学6年
お坊吉三	猪野 大我	小学4年
和尚吉三	田端 亮太	小学5年
おとせ(夜鷹)	中村 百合菜	小学5年
駕籠屋	常木 彩名	小学5年
駕籠屋	小林 奈々未	小学4年
釜屋武兵衛	新井 彩音	小学5年

指導・協力 小鹿野歌舞伎保存会

(講演要旨)

## ツキノワグマを通してみた山岳自然について ～丹沢をフィールドに～

長縄 今日子

### 講師プロフィール

(公財) 神奈川県公園協会、神奈川県立秦野ビジターセンター館長  
日本クマネットワーク神奈川県地区委員

.....  
フィールドである丹沢山地の自然とツキノワグマの生態について、  
わかりやすく解説します。  
.....

日本には、2種のクマがおり、北海道にヒグマ。本州、四国にツキノワグマが生息している。落葉広葉樹林を中心に日本の森林に広く生息しているが、生息地の分断化などで地域的な絶滅が心配されており、ついに昨年、九州では絶滅宣言が発表されるなどしている。

その一方で、東北、北陸などの地域では、人里への出没、農作物や養蜂への被害が深刻化しているほか、毎年のように、山菜取りや登山者などの人身事故も起こっている。

日本の森林でもっとも大型の哺乳類であるクマが生息するということが、それは、豊かで多様な森が息づく証拠。ぜひ、クマの生態を知り、人間側が賢く、クマとの共存を図っていきたいものである。

ここでは、これまで私がフィールドとしてきた丹沢山地のツキノワグマについて、生態調査を通じて、明らかになってきたことを丹沢の自然も交えてご紹介したい。

丹沢山地は、神奈川県西部に位置し、その一部は静岡、山梨にもつながる一大山塊である。神奈川県のおよそ1/6の面積、4万ヘクタールを有

し、主要なエリアは丹沢大山国定公園に指定されている。最高峰蛭ヶ岳は、1,673m。1,500m以上の山は、百名山の丹沢山など9座である。さほど高い山があるわけではないが、登山口からの標高差が1,000m以上を超える山が多く、急峻な地形から富士山やアルプスを目指す登山者の訓練登山にもよく利用されている。首都圏からのアクセスがよいことも、登山者が多い要因のひとつだろう。

そんな丹沢山地にも、ツキノワグマが生息している。今でこそ、クマの存在を知る登山者も増えてきたが、20、30年前は神奈川県民で丹沢山地にツキノワグマが生息することを知らなかった人が少なかったかもしれない。かくいう私もその1人である。目撃情報があっただけで駆除対象となり、各地で多くのクマの命が失われていることに衝撃を受け、クマの研究に携わりたいと、丹沢で行われていたツキノワグマの生態調査(調査主体: 野生動物保護管理事務所羽澄俊裕氏)に参加させていただくようになった。

発信機を装着して行われていた調査により、クマの行動圏、そして、痕跡調査で集めた糞を分解することにより、食性が明らかになっていった。

季節ごとに、クマは食料となる木の実りなどに  
応じて、高標高部から山麓まで大きく移動しなが  
ら広い範囲を利用して。春は、冬眠場所の周  
辺でスズダケ(ササ)の芽やサクラなどの木の芽。  
夏は、草本やアリ、ヤマザクラなどのサクランボ。  
秋には、オニグルミやミズキ、コナラなどのドン  
グリ。アケビやサルナシなどのつる性の植物まで、  
実に多様なものを利用して。だ。

沢沿いで草本を食べる時期には沢登りの人と  
出会う確率が高まる。真夏に実るミヤマザクラを  
求めてクマが主稜線に向かう頃は、稜線の登山道  
で目撃情報が寄せられ、オニグルミなど山麓で木  
の実を食べる時期は、山麓部で痕跡が増える。ク  
マとの出会いを避けるためには、いつどのような  
時期にクマがどのような場所を利用するのか、想  
像力を働かせるとよい。丹沢以外では、ザゼンソ  
ウ、ミズバショウなどはクマが春に好んで食べる  
植物だ。大型のセリ科植物やコケモモなどの実は、  
夏場に利用する。

単独の山行きで早朝や日暮れに、エサとなるも  
のがある場所を通るときは、要注意だ。クマに人  
の存在を気付いてもらえるよう、音を出すなど工

夫するとよいだろう。足跡、糞などの生々しい痕  
跡が続いてあるような場所には、まだ近くにクマ  
がいる可能性もあるので、長居はしないほうがい  
いだろう。

また、山小屋周辺やテント場に、生ごみなどを  
絶対に残さないこと。人の食べ物の味を覚えるク  
マを作らないことは、登山者である私たちが絶対  
注意しなくてはならないことだ。

けれど、時には、クマが静かに眠りにつく冬。  
葉が落ちて明るくなった林で、クマの爪痕がつい  
たブナの幹や枝を折った痕などがあれば、観察し  
てみてほしい。爪を立てて登った痕、滑り下りた  
痕、丹念に太い枝を手折り、小さな木の実を食べ  
たのかと想像すると、必死に森で生きるクマたち  
のたくましさ感動してしまうかもしれない。

クマが、人里で人為的な作物に手を出さず生き  
てゆくことができるよう、人間の生活圏との境界  
をしっかりと人間側が保っていくこと、そして、も  
しかしたら、クマに出会うかもしれない…、そん  
な緊張感を持って歩ける日本の山にこそ、実り多  
い豊かな自然があり続けてほしい。



## 知知夫国と嶽（たけ）やま（武甲山）

浅見 豊

### 講師プロフィール

前日本山岳協会自然保護常任委員  
 日本山岳協会自然保護委員会創設メンバーとして永年活躍。  
 2007年藍綬褒章を受章。1957年から環境省自然公園指導員を務め、秩父多摩秩父多摩甲斐国立公園指定50周年には、管理検討委員として秩父山地の景観保存に尽力。秩父山岳連盟会長、武甲山植物群保護対策推進協議会会長

.....  
 武甲山の再生活動を通して、山岳自然保護を考える  
 .....

ちちぶ むねさし むさし  
 知知夫国・胸刺国・无邪志国の三国は、律令制度の確立と共に「武蔵国」として統治され、北武蔵一体の知知夫国と呼ばれていた地域は、「秩父郡」としての1,300年の長い歴史に引き継がれました。

東西6キロメートルに山容をひろげる標高1,336メートル（現在は1,304メートル）の武甲山は、夕刻ともなると太陽を背にシルエットとして浮かび上がります。2,000メートル峰の連なる秩父山塊の変化に乏しい稜線上の突起としての山でなく、山麓の大地に厳然と立ちあがった神の住む黒い山として、麓の人たちの生活の場にある山として、畏れられ、そして親しみを一身に集めて参りました。この山塊が地球上に出現して2億年、山麓に人間が住みついて1万年、ここに住む人達は武甲山を生活のリズムの中心に置き暮らしてきました。

山名も、秩父の嶽山、秩父嶽、祖父ヶ嶽、妙見山、武光山、武甲山と変遷が見られます。嶽山が、秩父嶽に変わったのは、知知夫国が武蔵の国に編入されて秩父郡になった頃（飛鳥時代・推古朝 592～628年）、また、祖父ヶ嶽は大宝3年（703年）従五位下引田朝臣祖父（オオジ）が武蔵国守として登山したことによると伝えられています。古代「嶽」、「岳」には神が籠もるとされ、山麓では1,400年も前から呼ばれていた「たけやま」と呼ぶ習慣が現在でも生きてい

ます。

その昔、武甲山は江戸をはじめ関東平野からよくその姿を見ることができ、荒川の源流である武甲山の麓、嶽山の懐に一つの世界があると考えられておりました。江戸期の画家、谷文晁が描いた「日本名山図会」90座の中に美しい姿の武甲山が描かれているのを見ても、山麓の住民と深い係わりのあったことが想像できます。

海洋の底から造山運動により立ちあがった武甲山は、北面が石灰岩、南面が輝緑凝灰岩を主とする岩層の山でしたが、長年に渡る石灰岩の採掘により利用価値のない輝緑凝灰岩だけの山と化してしまいました。石灰岩は、大正時代初期から、石灰、土壌改良剤、肥料の原料として西側から掘られ始め、昭和40年頃からは急激に採掘が進み、北側の正面にまで及んで現在の姿となりました。正面岸壁の大きな10本程の山壁も削り取られ、山肌が平らになりました。水の流れが変わり降雨による異常事態も想定されま

す。  
 また、武甲山は、風致信仰とは別に石灰岩特有の植物の宝庫であり、シダ類以上の高等植物900種類が記録されております。特にブコウマメザクラ、チチブイワザクラ、ミヤマスカシユリなどは昭和26年、「武甲山石灰岩特殊植物群落」として国の天然記

念物に指定されました。この中には国の特別天然物に指定された植物もありましたが、武甲山の岩稜と共に破壊されました。

こうした産業開発のうねりに抗しきれなかった証左は枚挙に暇はありませんが、地元はただ手をこまねいていただけではありません。

秩父山岳連盟では昭和40年に秩父自然保護委員会を、そして45年には武甲山植物群保護対策推進協議会を発足させ、保護運動を始めました。当初は「武甲山に関係し工場で生活を支えている人々のことを考える！」と批判されもしました。また、植物群保護対策推進協議会では、昭和45年から39年間にわたり、市内の小中学校児童生徒を対象に、武甲山の図画、作文の作品展を実施してきました。子供たちが武甲山そして自然の大切さを考える人間に育つことを強く願い、期待して行ってきたものです。出展は毎年千点以上にも及び、既に親子二代にわたって出品されている方も大勢おり、出展総数は4万点にも及んでおります。

市民も行政も目先の経済効果を謳った20世紀も終わり、日本経済の凋落と共に、武甲山は秩父に住む私たちにとって工業社会の命運を象徴する山となってしまいました。この時代の経済の餌食となってしまったといっても過言ではありません。そして、これは秩父のことだけでなく、日本全国にある自然破壊の現場全てに当てはまることだと思います。子供たちの作文の中に書かれていた「武甲山は、これからの秩父にとってとても大きな課題」との一文が、今は既に現実となっています。

今この国では過去の急激な経済成長の代価として経験した、身体を蝕む公害・山林の乱伐等による自然災害への反省から、緑の植樹の運動が高まっております。このことに目覚めたことは本当に素晴らしいことだと思います。しかし、気候風土に恵まれたこの国では「自然回復力」の強さをもっと見直す必要があります。一端手を入れた人口林は最後まで人間が手を貸さなければならず、しかも自然災害には弱いのです。自然に生長した実生苗は、種から出た直根が地中深く伸びていくため、土砂崩壊にも気候

変化にも耐え得るのです。大きな木が根倒れし、崩壊の引き金になっているのを見ると、直根も根張りもない人工林が多いようです（しかし例外もあり、既に崩壊が始まり、灌木の萌芽更新が阻害されている地域では人為的な植林と育林が必要だと思えます）。

さて、武甲山ではどうでしょうか。1,336メートルの頂上がカットされ、1,304メートルからベンチカット方式で採掘し、残壁に幅2メートルの犬走りが付けられ、雪の日には美しい縞模様が見られます。この犬走りに50〜60センチの土を盛り植樹しております。下から見る人々は、武甲山はだいたい緑になったとのんきに眺めていますが、とんでもない見間違いなのです。

昭和34年9月26日、この国の自然災害の基準となった伊勢湾台風が秩父の上空を少し外れて通過しました。当時、武甲山は屏風岩の直下、白沢と三の輪鉦山の一部が削られていただけで北面の岩場も含め、全山緑にそっくり包まれておりました。南方に2,000メートルの屏風を立てた様な山脈が連なる秩父の盆地に住む人々は、この山々により台風は反れるか勢力が分散されるかと思っておりましたが、街中の看板や屋根も吹き飛ばす程の甚大な被害を被りました。武甲山はというと、生川に石灰工場のダンプカーが2・3台逆さまになり流されている姿はあったものの、水は沢山の山壁によって分散され流れ落ちていました。今、毎年日本に上陸する台風の本数でも同じルートを通することを考えると身の毛が立つ思いです。なぜなら、台風による大雨は壁のない岸壁を一気に流れ落ち、犬走りの植樹の為に客土を押し流します。この洪水と多量の土砂に埋まる下流の街はまさに大惨事です。自然の猛威に想定外はありません。武甲山に関しては、まず水の分散に重点を置き、水路を確立して安全を確保する。岸壁の緑は、破壊の代償として何年かかろうとも元の木々の自然回復を待つべきです。

今まで一言も発言しなかった為政者たちがこの山を「修景」といい、集会やシンポなど開いてランドデザインなどを発表しております。果たして

どのような回復の「策」があるのでしょうか。ある大学の先生（景観工学）は「このまま残しては」と書いております。「この地にセメント工業が立地し、神の山を開発して一大産業都市の繁栄が5・60年しか続かなかったという史実を表す記号としてこの原景観を尊重することも、この山容を後世に残す有効な方法の一つ・・・ではないか」（2008年「土木技術」）と。

確かに長い歴史のなかで育んできた「自然と盆地

に住む人々の心」を見事に破壊した経済遍歴の姿をこのまま残してやるのが、秩父のそして地球規模で日本のこれからの人たちのための指針になると思います。

武甲山をどう「再生」するか議論は尽きませんが、私たち秩父びとは、この山の姿がどんなに変わっても、山が在ることを喜び、四季の美しさを見せる武甲山を心の支えとしてこれからも暮らしていきます。



平成 20 年 武甲山を背景にセメント工場



平成 18 年の武甲山



昭和 30 年の武甲山

(講演要旨)

## 「山はみんなの宝」憲章制定の経緯 皆さんへの期待と今後の展開

上 幸雄

### 講師プロフィール：

特定非営利活動法人山のECHO 代表理事  
 1985年に、仲間と日本トイレ協会（現在はNPO法人日本トイレ研究所）を設立  
 2003年にはNPO法人山のECHOを設立し、山岳地のトイレ改善、適正利用化に取り組む。富士山での携帯トイレ使用実験調査、山岳トイレ技術開発、環境省の山小屋トイレ整備補助制度や環境技術実証事業などをテーマに活動しています。技術士（環境部門）

「山はみんなの宝憲章」の制定運動を通して、山岳自然保護の更なるありかたを考える

### 〔1〕「山はみんなの宝」憲章制定運動の経緯

1. 環境省が山小屋トイレに補助制度を創設
2. それが突然『廃止』の判定
3. 「山はみんなの宝」全国集会
4. 「山はみんなの宝」全国大会
5. 何が問われたのか 登山者への社会が見る目と自覚

### 〔2〕補助制度の復活で付帯条件

1. 『廃止』が一転して形を変え「予算復活」
2. 復活できた背景は何か
3. 付帯条件が問うていること
4. いま、山岳関係者が取り組むべきこと

### 〔3〕「山はみんなの宝憲章」、「入山者ルール」を創る運動への展開

1. 「憲章」、「入山者ルール」制定の意義と意味
2. 署名活動と意見交換会の開催
3. 木曾・御嶽山の事例 一入山ルールと山岳信仰
4. 「山はみんなの宝」運動と今後の展開

### 〔4〕「自然保護と適正利用」を超える活動はないか

1. 国際的な“自然と聖地”活動
2. 自然体で“自然”に親しむ形はないか
3. 日本の山は“神々”の住まう処
4. 「山」に向けた日本・アジアとヨーロッパの違い
5. “自然と聖地”活動で何を指す





# ナイトフォーラム

## 資 料

- 1) 宇宙創世から現在の日本列島まで
- 2) 星空ウォチング

# ナイトフォーラム「宇宙創成から現在の日本列島まで」

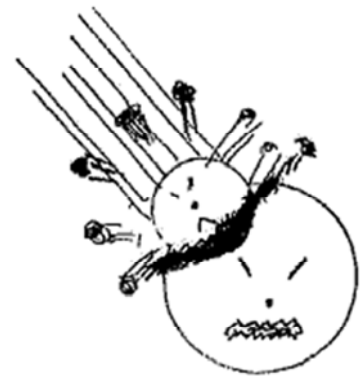
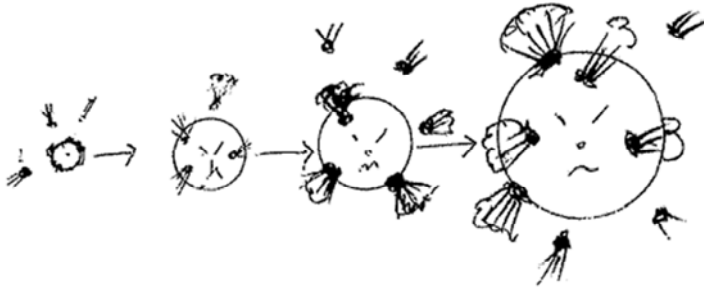
講師 藤井 謙昌

## 地球の歴史

46 億年前 大爆発

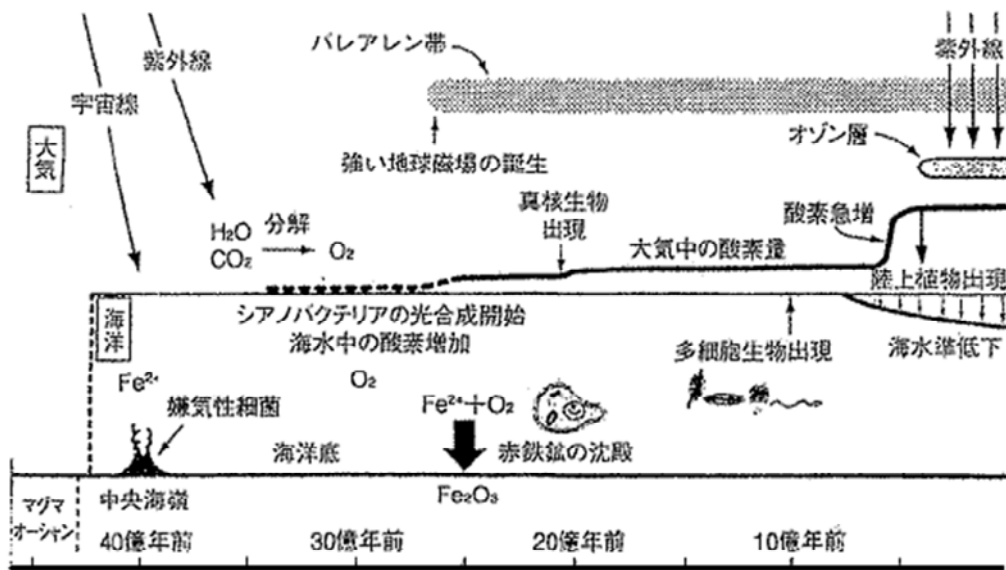
10km の火の玉 だんだん大きくなる 6400Km

シャイアントインパクト 地軸 23 度 26 分 21 秒 448 に傾く



## 四季の変化

日本はどのようにしてできたか 5 億年前頃～2000 万年前 大陸縁での付加体の成長



27 億年前

磁場が出来 地球をバリアー 太陽風が避けられる。生物(バクテリア)が浅い海に進出

オゾン層を作った。 紫外線がカット

## 生物の上陸条件そろそろ

ホットプルームの上昇

中国大陸の一部だった日本がひきさかれ大真中に

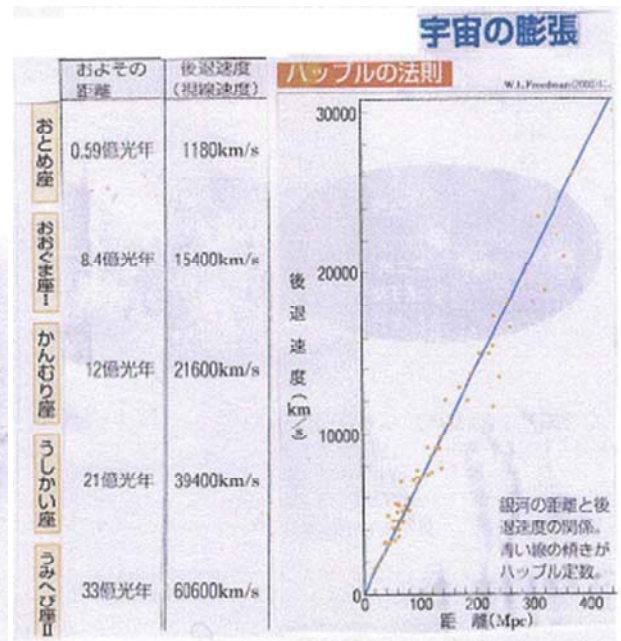
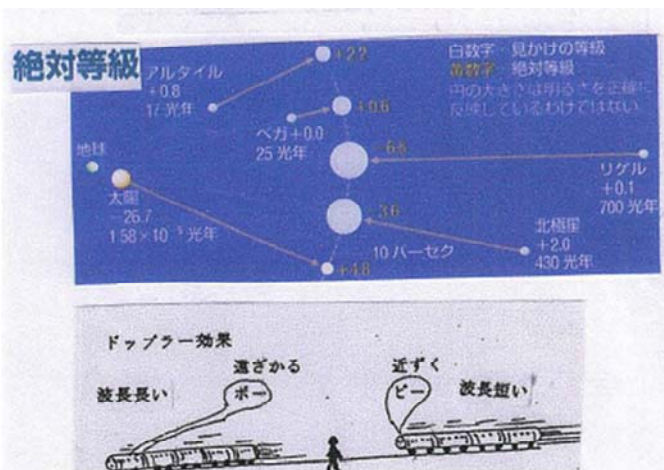
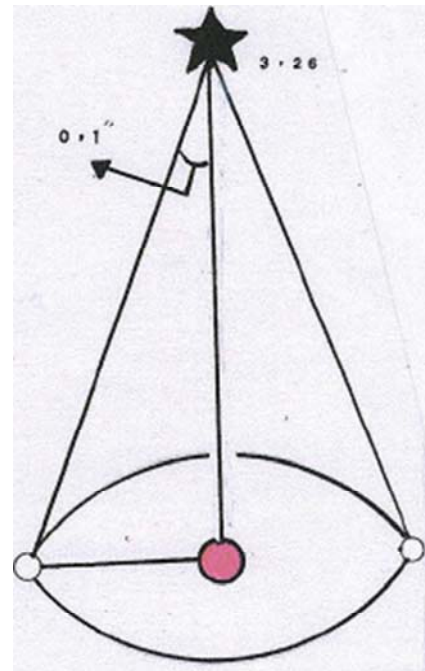
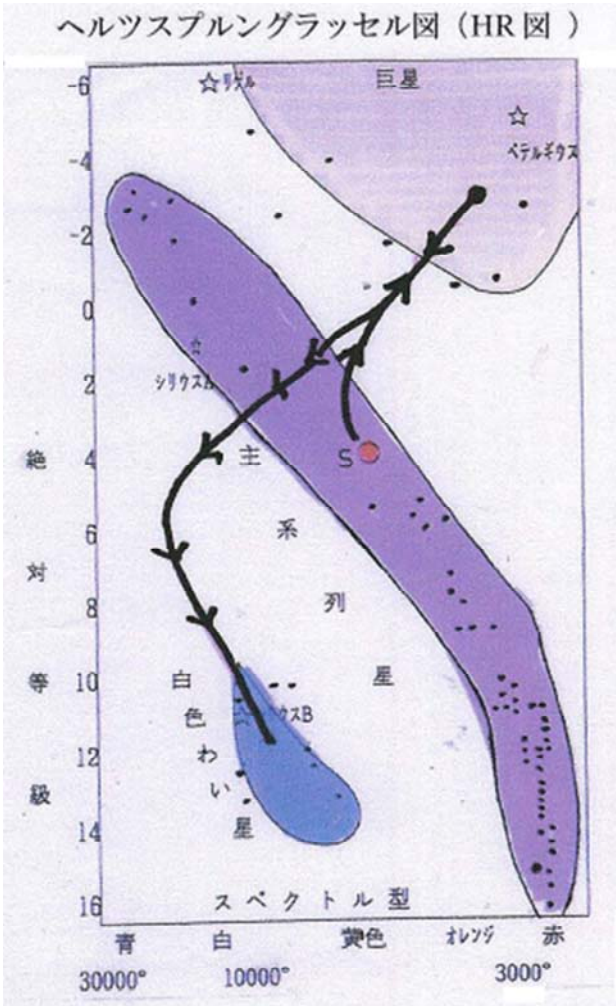
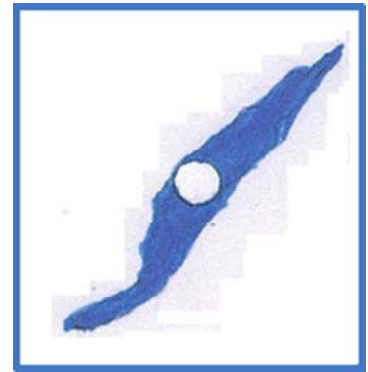
日本海ができる。



その時 何もなかりき 有もなかりき 空界もなかりき  
 そを蔽う天もなかりき (宇宙の歌)

137億年前 小さな 小さな宇宙

ブランク→インフレーション→宇宙の晴れ→ファーストスター



☆☆☆ 星空ウォッチングのご案内 ☆☆☆

山で見る星空は格別です！

☆ 天気が良ければ、上弦の月を愛でながら9月の星空を楽しみましょう。  
 天の川や星座さがしのお手伝いをいたします。  
 肉眼では見えない宇宙の一部を天体望遠鏡で見てください。

★ あいにく、雲が月や星を隠したときには、室内で国立天文台監修の  
 『Mitaka』というソフトで銀河系の宇宙旅行を計画しています。  
 宇宙に想いを馳せて自然の営みの素晴らしさを実感しましょう。

平成25年9月15日  
 19:00～21:00

谷川岳天神平 星の鑑賞会  
 ボランティアガイド

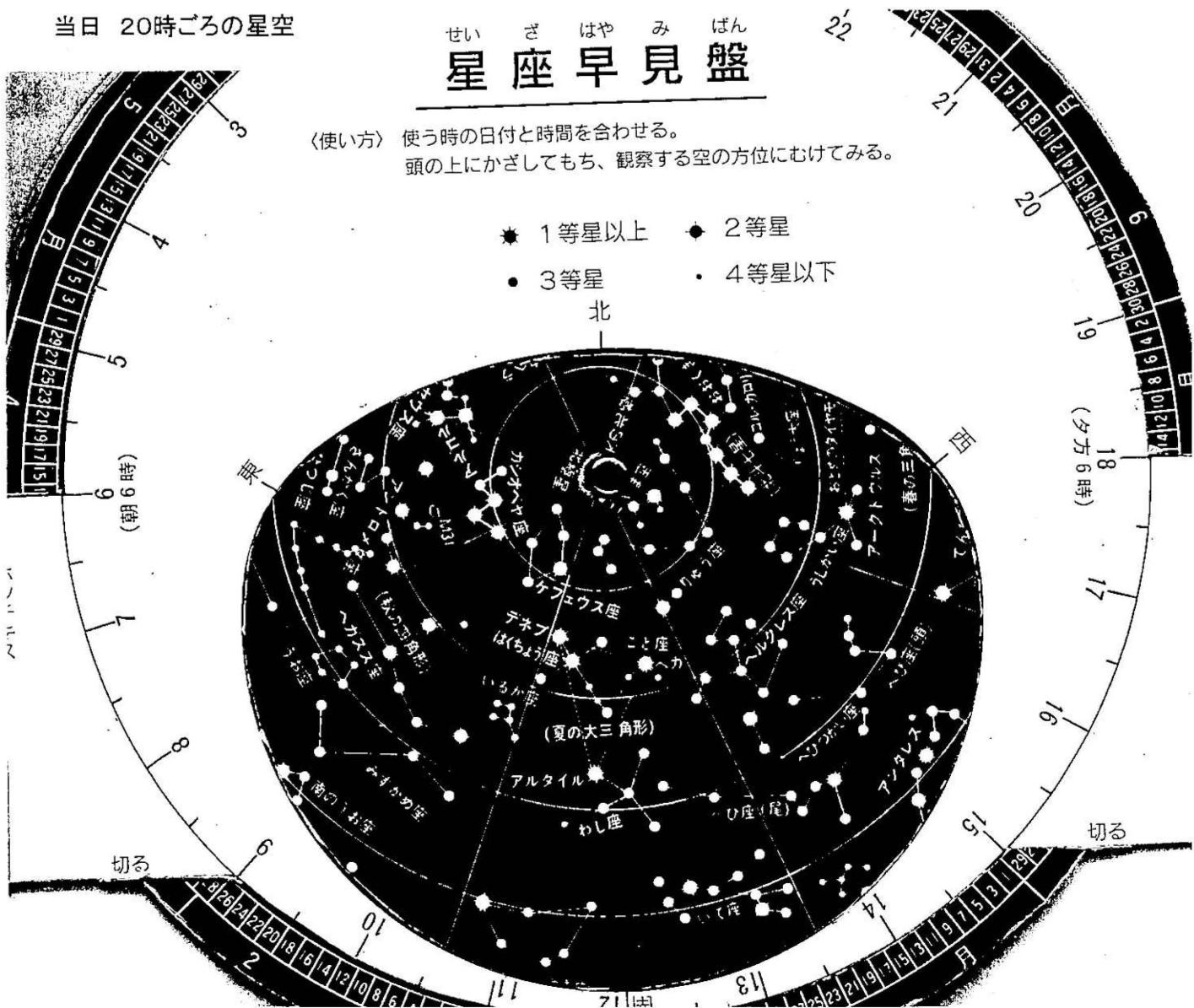
齋藤 次江

当日 20時ごろの星空

せい ざ はや み ばん  
**星座早見盤**

〈使い方〉 使う時の日付と時間を合わせる。  
 頭の上にかざしてもち、観察する空の方位にむけてみる。

- ★ 1等星以上
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下



## エキスカージョン 資 料

- 1) 両神山
- 2) 高尾山
- 3) 長瀬地質探勝

## 両神山

両神山（1,724.5m）は深田日本百名山のひとつです、鋸歯状の稜線に特徴がある山です。又、今回の両神山登山ルート土地は殆どが私有地で、土地所有者の山中豊彦氏の講話「環境保全料徴収や、山中家と両神山の係わりについて」を拝聴後、林業用作業道を改良した登山道の巡見を行います。



アカヤシオツツジの咲く両神山（5月）

- ア、期 日 平成25年9月16日（月）
- イ、コース 小川元気プラザ 5:30 発⇒有料道路⇒小鹿野町⇒薬師の湯 7:00～7:30（朝食） ⇒白井差登山口 8:20～8:40 山中氏講話「環境保全料を徴収」について
- 登り 白井差登山口…昇竜の滝…大股…  
水晶坂…ブナ平…稜線…両神山…約3時間20分
- 下り A班 山頂…下山専用登山道…昇竜の滝…白井差（所要 約2時間30分）  
B班 山頂…ブナ平…水晶坂…昇竜の滝…白井差（所要 約2時間）
- 帰路 白井差登山口⇒薬師の湯（入浴）⇒西武秩父駅（解散）⇒小川元気プラザ（16:00 予定）
- ※ A班：下山専用登山道は山中氏が林業作業道を活用した登山道で、急下降路で鎖場あり。
- ※ B班：下山に自信のない方（足に自信の無い方・登りで疲れた方は同じ道を下る）

### ウ、参加定員

最大参加者は25名（一日の入山者規制の為）

### エ、装 備

雨具、防寒具、ヘッドランプ、水筒、手袋、その他必要なもの

### オ、ガイドマップ

昭文社：山と高原地図「雲取山・両神山」 1/25000 地形図：「両神山・中津峡」

### カ、その他

- ※ 朝食・昼食については主催者で弁当を一括購入し配布いたします。
- ※ 朝食は小鹿野町両神「薬師の湯」駐車場にていたします。
- ※ 雨天時の登山行動は巡見登山責任者である石倉委員長が現地にて判断いたします。尚、雨天時の下山は同じコースを下山いたします。（急坂で鎖場が有り危険なため）
- ※ 登山行動中のストックの使用はご遠慮頂きます。
- ※ 帰路の入浴は「薬師の湯（入浴代=600円）」又は「国民宿舎：両神荘」（入浴代=800円）（個人負担、割引有り）

キ、概念図

両神山概念図



注：コースは山中氏作成の個人登山道を示す。

ク、メンバー

CL	石倉 昭一 (実行委員長)
本部主任	岩崎 繁夫 (実行委員)
本部員	堀江 伸子 (実行委員)
本部員	柴崎 英保 (実行委員)
本部員	浅香 聖成 (実行委員)

講師・案内	山中 豊彦 氏
-------	---------

班	Aコース：1班	Aコース：2班	Aコース：3班
L	斎藤 長作 (実行委員)	仙波 義雄 (実行委員)	手塚 福寿 (実行委員)
SL	狩野 誠 (実行委員)	松本 博 (実行委員)	角田 二三男 (実行委員)
救護	斎藤 次江 (実行委員)	中川 一芳 (実行委員)	大森 基男 (実行委員)
1	小林 貞幸 (長野山協)	計良 寿彦 (埼玉岳連)	伊藤 直 (新潟山協)
2	山本 憲彦 (京都府岳連)	門出 郡平 (埼玉岳連)	石田 邦雄 (新潟山協)
3	増尾 翼 (京都府岳連)	相沢 重夫 (埼玉岳連)	遠藤 俊一 (新潟山協)
4	西田 和美 (京都府岳連)	平野 純一郎 (埼玉岳連)	南山 克己 (新潟山協)
5	磯野 澄也 (山梨岳連)	大西 光子 (埼玉岳連)	中沢 隆一 (茨城岳連)
6	高取 和彦 (山形岳連)	今津 朝子 (埼玉岳連)	藤川 敏光 (徳島岳連)
	6	6	6

班	Bコース：1班	Bコース：2班
L	柳原 政一 (実行委員)	
SL	中西 博 (実行委員)	内田 文子 (実行委員)
救護	本村 貴子 (実行委員)	
1	門谷 峰雄 (岐阜岳連)	上 幸雄 (山のECHO代表)
2	亀井 正年 (岐阜岳連)	速水 敬子 (栃木岳連)
3	戸田 忠保 (岐阜岳連)	高橋 邦夫 (栃木岳連)
4	佐藤 健 (北海道岳連)	増田 修 (埼玉岳連)
5	麻田 正博 (高知県山岳連盟)	
	5	4



## 高尾山

高尾山は「明治の森高尾国定公園」に指定され、東海道自然歩道の起点でもあります。(高尾山～箕面まで1,350km) 高尾山・薬王院有喜寺は

奈良時代の高僧、行基により開山されたと伝わっており、成田山、新勝寺・川崎大師、と共に関東三山の一つに数えられています。

フランスの雑誌、ミシュランガイド(日本の観光地)で、知床、日光、奈良などと共に「高尾山」が三ツ星で紹介され、一躍、話題となり、年間260万人(国内外からの外国人も多数を)も訪れるスポットとなりました。世界にも類を見ない、登山人数ですが、オーバーユース、し尿、トイレなど様々な問題を抱えています。なお、中央高速道からの分岐点として、高尾山を貫通するトンネルが完成しました。今後の派生が想起される生態系への著しい影響も含めて、巡見登山を行うのも貴重な体験と思い企画しました。皆さまのご参加をいただきました事、喜んでおります。ちなみに、一つ星は「面白い」、二つ星は「とても面白い」、☆☆☆三ツ星は「必ず見るべき」という評価です。

1、期日／平成25年9月16日〔月〕

2、行程／小川元気プラザ・朝食(7時)・・・玄関前) 8:30集合

元気プラザ(9時発、マイクロバスにて)→花園インター→圏央道→高尾インター→裏高尾(日陰駐車場)・・・登山口、到着予定10時半

登山口→(60分)→山頂→(30分)→表参道・十一丁目茶屋→(40分)→京王線・高尾山口駅

\*昼食は午後1時半頃(各自負担)の予定。軽めの行動食をご用意ください

\*食事処：紅葉屋本店(創業明治27年)042-661-2012

\*\*\*\*\*駅前にて解散：14時半を予定しています。\*\*\*\*\*

3、個人装備／ハイキング装備一式・軽めの行動食

登山中の間、不要な荷物は「都岳連、自家用車」にて預かります。

4、共同装備／救急セット・トランスシーバー・・・5台

6×20-1本、スリング、カラビナ少々

5、参加者／都岳連自然保護委員会・サポート隊員——9名

救急班(看護師1名含む)ー2名

高尾山における植物の植生、現地にて(廣田氏、椎名女史)ー2名

6、一般参加者

- 1、杉本 三郎 愛知県山岳連盟
- 2、福永 やす子 広島県山岳連盟
- 3、森 智昭 広島県山岳連盟
- 4、相良 忠麿 神奈川県山岳連盟
- 5、井原 道宏 一般

7、東京都山岳連盟、参加者

椎名 宏子、岡田 博行、野本 秀旺、大島 文雄、石井 弘好  
小林 佐知子、蝦名 千賀、高浜 てる子

8、スタッフ：

西山 常芳(CL)、小高 令子(SL)、小島 和徳、小原 美子、  
廣田 博、徳永 邦光、池谷 弘子

## 長瀬地質探勝

期 日：9月16日（月）

出 発：県立小川げんきプラザ（8：30）

解 散：県立小川げんきプラザ（15：30）、東武小川町駅 16：00（予定）

コース及び、タイム・スケジュール： 次表に示す通り。

時刻	場所 イベント
8：45	県立小川げんきプラザ
∥	
9：30	秩父鉄道長瀬駅
⇕	岩だたみ、虎岩 を見学（徒歩約1.5km）
10：30	県立自然の博物館
	地質レクチャー、館内見学
11：30	県立自然の博物館
∥	
11：45	親鼻橋
⇕	紅簾片岩・甌穴見学
12：10	親鼻橋

時刻	場所 イベント
∥	
12：30	和銅遺跡 昼食
⇕	和銅遺跡・黒谷断層の見学（徒歩片道0.5Km）
13：30	和銅遺跡
∥	
14：00	皆野町 大淵
⇕	前原の不整合見学
14：30	皆野町 大淵
∥	
15：30	小川げんきプラザ
∥	
16：00	東武小川町駅

凡例

∥ バス移動

⇕ 徒歩移動

### 長瀬地区

秩父鉄道長瀬駅を出発して、県立自然の博物館を目指して、荒川沿いに、約1.5Kmのハイキングを行います。この地域は「日本地質学発祥の地」といわれており、長瀬には「岩畳」や「秩父赤壁」など、興味深い地形が至る所に点在しています。長瀬を「地球の窓」と呼ぶ人もいます。

### 岩畳



地下20～30kmの深部から隆起した結晶片岩はうすくパイ生地のように剥がれやすくなっています。文字どおり岩畳となって広がる長瀬の中心地で「地球の窓」とも言われています。荒川は、この岩畳一帯で青く淀んだ瀬となり美しさを増しています。付近一帯の景観は舟下りの観光客の目を楽しませています。また、増水の影響を受ける岩畳の割れ目には、全国的にも大変珍しいユキヤナギの群生がみられます。

岩畳の対岸には、「秩父赤壁」の名で親しまれている高さ50m以上の断崖が川沿いに数100mにわたって続いています。夕陽を浴びて赤く染まる「赤壁」は、中国湖北省の揚子江沿いの『三国志』に登場する古戦場として名高い「長江赤壁」に由来しています。この断崖は、地下深部から地上に隆起してきたときの大きなひび割れで、岩畳にもこれに平行する多くの割れ目があります。

### 自然の博物館



館に入ると、巨大なサメ（カルカロドンメガロトロン）や古代巨竜（パレオパラドキシ）の展示が出迎えてくれます。いずれもこの地方の地層（約1500万年前）などから発見されたものです。古代にはここは海であった証です。

博物館の学芸員の方から地質のレクチャーを拝聴し、館内を見学します。

## 皆野地区

長瀬町の隣、親鼻橋を渡った荒川の右岸にある景勝地です。

### 紅簾片岩・甌穴



親鼻橋（写真奥あ）を渡った荒川の右岸にある露岩です。

地下 20km～30km の深さで変成作用を受けたもの。荒川の浸食作用を受け独特の景観をつくりだしています。

1888 年、世界で初めて、ここの結晶片岩中から紅簾石の存在が報告されました。長瀬自体も国の天然記念物に指定されているほか、この親鼻の紅簾石片岩も、県の天然記念物に指定されています。紅簾片岩の岩塊の磯場に甌穴（左）があります。甌穴（左）はポットホールと呼ばれるもので、岩がまだ河床だった頃、渦を巻く急流によって石が回転し、長い年月をかけて岩がすり減って円筒状の穴になったものです。その中で、もっとも大きいといわれるものがこの甌穴で、直径 1.8 メートル、深さ 4.7 メートルの大きさです。

## 黒谷地区

秩父鉄道和銅黒谷駅の東側にある小高い山（祝山）の岩肌には「和銅」の大文字がくっきりと描かれています。西暦 708 年、この地で採掘された自然銅が朝廷に献上されました（和銅奉獻）。

### 和銅遺跡・黒谷断層破碎



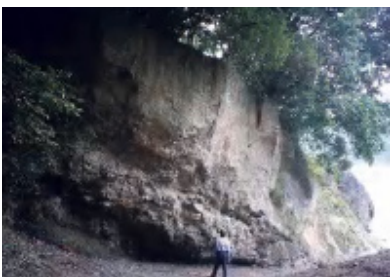
和銅は精錬を要しない自然銅のことで、慶雲 5 年、西暦 708 年、武蔵国秩父郡から銅が献上され、これを喜んだ朝廷は年号を「和銅」と改元し、日本最初の貨幣「和同開珎」を発行しました。このことは日本の正史に燦然と輝く歴史的事実であります。その「和銅」が採掘された跡が、今もなお秩父市黒谷の和銅山に残されています。ここを中心とした一帯が「和銅遺跡」です。

和銅露天掘り跡は黒谷一出牛（じゅうし）断層に含まれます。この断層は、秩父盆地東縁を境にする断層で、皆野町出牛から、宝登山西麓、蓑山西麓、秩父市黒谷、栃谷に伸びていて、東側が上昇しています。

## 皆野町大淵地区

荒川の左岸で、黒谷地区の対岸で荒川が大きく蛇行する。河岸の段丘崖には地球の歴史が見られる。

### 前原の不整合



不整合とは、年代の大きく異なる地層が重なっていることを示す用語で、それらの地層の境界面を不整合面といいます。

基盤は、秩父累帯北帯に属する秩父層群は不整合面の直下では破碎されています。年代は、ジュラ紀古世の後期～新世の前期です。上位に重なる新第三系は牛首峠層の礫岩～砂岩で、不整合面直上は厚さ約 3 メートルの礫岩です。礫は砂岩、チャートや粘板岩で、特に最下部の礫は大きく、人頭大やそれ以上のものもみられます。上部になるにつれて礫の量が少なくなり、粗粒砂岩へと漸移します。礫岩砂岩や礫岩の基質はアルコース質（花こう岩質）の白色砂岩です



メンバー

参 加 者			ス タ ッ フ		
坂 口	三 郎		藤 井	謙 昌	
金 澤	鉄 造		松 隈		豊
橋 本	介 伺		紅 葉	淳 一	
寺 内	正 明		櫻 井	勝 伸	
植 松		勲	三 ツ 木	達 男	
野 口	勝 広		横 山	高 明	
新 村	貞 男		石 井	清 一	
			濱 田		伸
			遠 山	若 江	
			小 川	由 樹	

## 付 録

- 1) 会場付近図
- 2) タイムスケジュール
- 3) 参加者名簿
- 4) 小川げんきプラザ館内案内図

# 会場地付近図



## タイムスケジュールと施設見取り図

	9月14日(土)	9月15日(日)	9月16日(月)
午前	\	起床 5:30	両神山行起床 5:00
		モーニングワーク 6:00~7:30	両神山行出発 5:30
		朝食 7:30~8:30	起床(両神山行以外) 6:00 寝具片づけ
		個別セッション 9:00~11:00 本館 研修室・集会室	朝食 7:30~8:30
(役員会議) 10:00 本館 集会室	全体会議 11:10~12:00 本館 研修室	出発 8:30	
午後	受付開始 12:00 本館 玄関	昼食 12:00	
	委員長会議 12:30~13:00 本館 集会室	地元芸能(公開) 13:00~14:00 活動センター 1階	
	開会式 13:30~14:00 活動センター 2階		
	総会 14:00~15:00	講演(公開) 14:00~17:30 活動センター 2階	\
	集合セッション 15:15~17:45 活動センター 2階		
	寝具配布 17:45~		
	入浴・夕食 18:00~	入浴・夕食 18:00~	
		エクスカージョン打ち合わせ 食堂 18:45~19:15	
	レセプション 19:00~21:00 本館 食堂	ナイトフォーラム 19:15~20:00 本館 研修室・集会室	
就寝 22:00	就寝 22:00		

## 開催地一覧

番号	年度	開催日	開催地	担当岳連
1	昭和52年	9月11日	東京都 岸記念体育会館	中央常任
2	昭和53年	12月9日～10日	秩父市 秩父福祉婦人会館	埼玉県
3	昭和54年	9月1日～2日	立山町 文部省登山研修所	中央常任
4	昭和55年	11月15日～16日	京都府 嵐山常寂光院	京都府
5	昭和56年	11月1日～2日	鳴子町 鬼首温泉	宮城県
6	昭和57年	10月30日～31日	芦安村 南ア温泉ロッジ	山梨県
7	昭和58年	10月22日～23日	白川村 民宿大杉	岐阜県
8	昭和59年	10月27日～28日	茅野市 唐沢鉱泉	長野県
9	昭和60年	10月5日～6日	仙北市 鶴の湯温泉	秋田県
10	昭和61年	11月8日～9日	玉野市 王子ヶ岳	岡山県
11	昭和62年	10月17日～18日	福島市 新野地温泉	福島県
12	昭和63年	10月22日～23日	坂出市 五色台国民休暇村	香川県
13	平成元年	9月9日～10日	日光市 日光湯元温泉	栃木県
14	平成2年	8月18日～19日	立山町 雷鳥荘	富山県
15	平成3年	11月9日～10日	滋賀県 永源寺	滋賀県
16	平成4年	10月17日～18日	水上町 水上温泉	群馬県
17	平成5年	10月16日～17日	尾口村 一里野温泉	石川県
18	平成6年	10月15日～16日	田方郡 箱根ランド	静岡県
19	平成7年	10月21日～22日	東茨城郡 御前山荘	茨城県
20	平成8年	10月19日～20日	津南町 マウンテンパーク津南カントリーロッジ	新潟県
21	平成9年	10月18日～19日	川内町 湯野川温泉	青森県
22	平成10年	10月31日～11月1日	鳳来町 愛知県県民の森	愛知県
23	平成11年	10月9日～10日	羽黒町 大進坊	山形県
24	平成12年	7月8日～9日	宮島町 杉之浦公民館	広島県
25	平成13年	10. 27日～2日8日	今庄町 保健センター	福井県
26	平成14年	10月5日～6日	西根町 いこいの村岩手	岩手県
27	平成15年	9月20日～21日	金屋町 生石高原青年の家	和歌山県
28	平成16年	10月23日～24日	上屋久町 離島開発センター	鹿児島県
29	平成17年	11月26日～27日	鴨川市 黒潮荘	千葉県
30	平成18年	6月10日～11日	竹田市 久住高原荘	大分県
31	平成19年	11月3日～4日	秩父市 三峰神社宿坊	埼玉県
32	平成20年	11月8日～9日	東大阪市 グリーンガーデン枚岡	大阪府
33	平成21年	11月7日～8日	新居浜市 銅山の里	愛媛県
34	平成22年	9月11日～12日	柏崎市 じよんのび温泉施設	新潟県
35	平成23年	10月15日～16日	大山町 ホテル大山しろがね	鳥取県
36	平成24年	9月8日～9日	美瑛町 国立大雪青少年交流の家	北海道
37	平成25年	9月14日～16日	小川町 県立小川げんきプラザ	中央常任
38	平成26年	未定	広島市予定	広島県



## 参加者名簿

	氏名	所属	宿泊室	エキスカンション
来賓	脇坂 純一	埼玉県環境部みどり自然課長		
来賓	笠原 喜平	小川町長		
	沼崎 敬	埼玉県環境部みどり自然課		
	森下 健七郎	埼玉県山岳連盟会長	306	
	加藤 富之	埼玉県山岳連盟事務局長	306	
講師	浅見 豊	秩父山岳連盟会長		
講師	上 幸雄	山のECHO 代表理事		
講師	長縄 今日子	秦野ビジターセンター館長		
講師	山中 豊彦	両神山地主		両神山
	坂口 三郎	日山協顧問	305	長瀨
	田中 文男	日山協顧問	305	不参加
	神崎 忠男	日山協会長	305	高尾山
	杉本 三郎	愛知県山岳連盟	301	高尾山
	山本 憲彦	京都府山岳連盟	301	両神山
	増尾 翼	京都府山岳連盟	301	両神山
	西田 和美	京都府山岳連盟	409	両神山
	橋本 介伺	三重県山岳連盟	301	長瀨
	佐藤 健	北海道山岳連盟	301	両神山
	小林 貞幸	長野県山岳協会	301	両神山
	麻田 正博	高知県山岳連盟	301	両神山
	福永 やす子	広島県山岳連盟	409	高尾山
	森 智昭	広島県山岳連盟	302	高尾山
	島津 勝洋	岡山県山岳連盟	302	不参加
	門谷 峰雄	岐阜県山岳連盟	302	両神山
	亀井 正年	岐阜県山岳連盟	302	両神山
	戸田 忠保	岐阜県山岳連盟	302	両神山
	豊田 稔	静岡県山岳連盟	302	不参加
	高橋 邦夫	栃木県山岳連盟	302	両神山
	速水 敬子	栃木県山岳連盟	409	両神山
	磯野 澄也	山梨県山岳連盟	303	両神山
	高取 和彦	山形県山岳連盟	303	両神山
	伊藤 直	新潟県山岳協会	303	両神山
	石田 邦雄	新潟県山岳協会	303	両神山
	南山 克己	新潟県山岳協会	303	両神山
	遠藤 俊一	新潟県山岳協会	303	両神山
	中沢 隆一	茨城県山岳連盟	303	両神山
	古峰 孝	埼玉県山岳連盟	304	不参加
	新井 宏司	埼玉県山岳連盟	304	不参加
	計良 寿彦	埼玉県山岳連盟	304	両神山
	吉田 秀夫	埼玉県山岳連盟	304	不参加
	長谷川 茂	埼玉県山岳連盟	304	不参加
	山口 新二	埼玉県山岳連盟	304	不参加

	氏名	所属	宿泊室	エキスカンション
	門出 郡平	埼玉県山岳連盟	304	両神山
	大西 光子	埼玉県山岳連盟	407	両神山
	今津 朝子	埼玉県山岳連盟	407	両神山
	植田 瑞穂	岩手県山岳協会	305	不参加
	三浦 拓男	岩手県山岳協会	305	不参加
	矢島 賢治	福井県山岳連銘	305	不参加
	椎名 宏子	東京都山岳連盟	408	高尾山
	岡田 博行	東京都山岳連盟	305	高尾山
	野本 秀旺	東京都山岳連盟	305	高尾山
	大島 文雄	東京都山岳連盟	305	高尾山
	石井 弘好	東京都山岳連盟	305	高尾山
	小林 佐知子	東京都山岳連盟	408	高尾山
	相良 忠麿	神奈川県山岳連盟	306	高尾山
	田中 喜志子	山梨県山岳連盟	409	不参加
	山口 けさ美	山梨県山岳連盟	409	不参加
	藤川 敏光	徳島県山岳連盟	306	両神山
	井原 道宏	オープン参加	306	高尾山
	寺内 正明	群馬県山岳連盟	306	長瀨
	植松 勲	群馬県山岳連盟	306	長瀨
	野口 勝広	群馬県山岳連盟	306	高尾山
	蝦名 千賀	東京都山岳連盟	408	長瀨
	金澤 鉄造	千葉県山岳連盟	306	長瀨
	増田 修	埼玉県山岳連盟	307	両神山
	池田 敏彦	埼玉県山岳連盟	307	不参加
	瀬下 吉政	埼玉県山岳連盟	307	不参加
	相沢 重夫	埼玉県山岳連盟	307	両神山
	平野 純一郎	埼玉県山岳連盟	307	両神山
	高浜 てる子	東京都山岳連盟	408	高尾山
	新村 貞男	東京都山岳連盟	307	長瀨

(小鹿野歌舞伎保存会)

氏名	所属	氏名	所属
堀口 武治	小鹿野歌舞伎保存会	飯塚 光留	子ども歌舞伎出演者
柴崎 好一	小鹿野歌舞伎保存会	猪野 大我	子ども歌舞伎出演者
小松 恒夫	小鹿野歌舞伎保存会	小林 奈々未	子ども歌舞伎出演者
森川 文行	小鹿野歌舞伎保存会	田端 亮太	子ども歌舞伎出演者
小澤 幸男	小鹿野歌舞伎保存会	常木 彩名	子ども歌舞伎出演者
高岸 茂子	小鹿野歌舞伎保存会	中村 百合菜	子ども歌舞伎出演者
高橋 京子	小鹿野歌舞伎保存会	新井 彩音	子ども歌舞伎出演者
高橋 利安	小鹿野歌舞伎保存会	小林 展子	出演者保護者
黒沢 シズノ	小鹿野歌舞伎保存会	常木 律子	出演者保護者
柴崎 芳江	小鹿野歌舞伎保存会	新井 英代	出演者保護者
小澤 美代子	小鹿野歌舞伎保存会	中村 綾子	出演者保護者

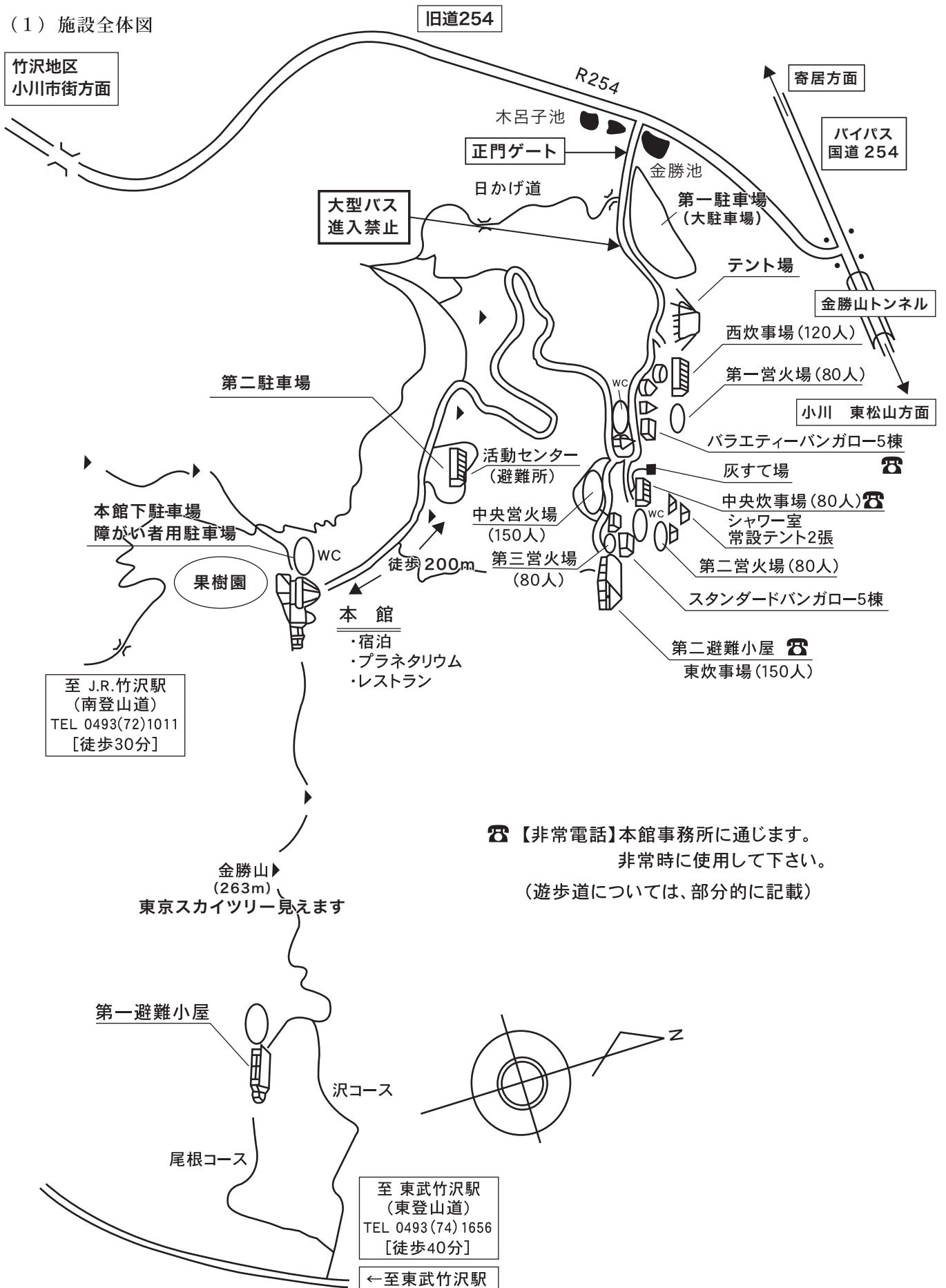
氏名	所属	氏名	所属
神田 進	小鹿野歌舞伎保存会	猪野 典子	出演者保護者
鳥山 民子	小鹿野歌舞伎保存会	田端 直美	出演者保護者
茂木 深	小鹿野歌舞伎保存会	飯塚 鮎子	出演者保護者
山本 正実	小鹿野町教育委員会 社会教育課課長	山口 清文	記録
原 正義	小鹿野町		

(実行委員会)

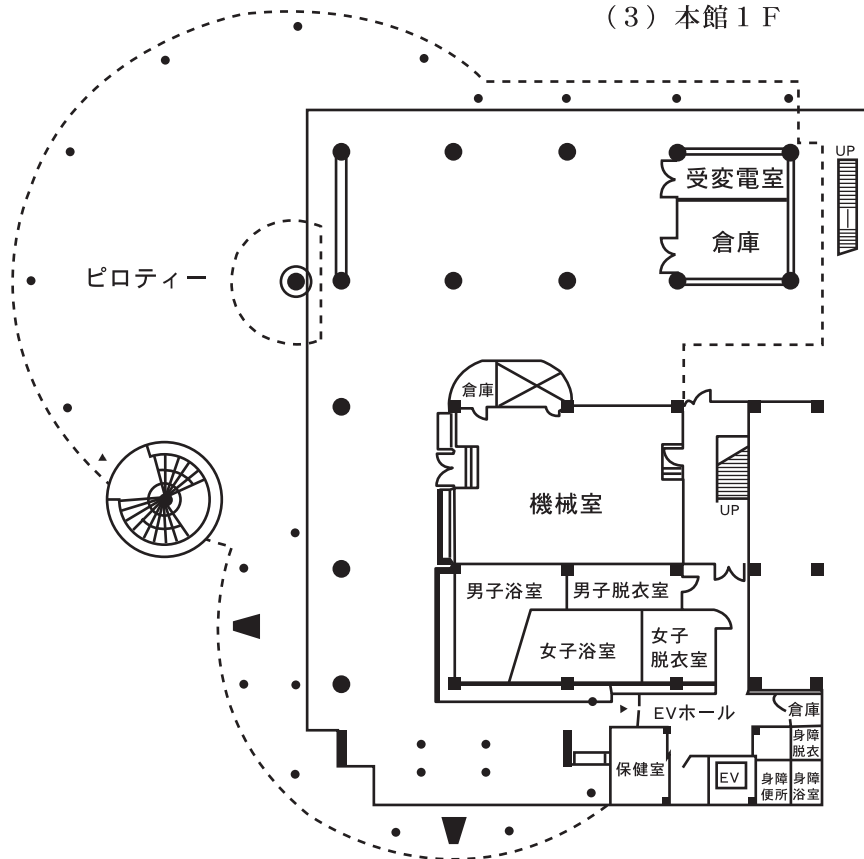
	氏名	所属	宿泊室	エキスカージョン
委員長	石倉 昭一	日山協自然保護委員長 (埼玉県山岳連盟)	401	両神山
副委員長	徳永 邦光	日山協自然保護副委員長 (東京都山岳連盟)	401	高尾山
副委員長	松隈 豊	日山協自然保護副委員長 (神奈川県山岳連盟)	3F リ	長瀬
事務局長	小高 令子	日山協自然保護事務局長 (東京都山岳連盟)	407	高尾山
委員	小川 由樹	日山協常任委員 (茨城県山岳連盟)	401	長瀬
委員	手塚 福寿	日山協常任委員 (栃木県山岳連盟)	4F リ	両神山
委員	斎藤 長作	日山協常任委員 (群馬県山岳連盟)	401	両神山
委員	岩崎繁夫	日山協常任委員 (埼玉県山岳連盟)	401	両神山
委員	堀江 伸子	日山協常任委員 (埼玉県山岳連盟)	407	両神山
委員	西山常芳	日山協常任委員 (東京都山岳連盟)	402	高尾山
委員	廣田 博	日山協常任委員 (東京都山岳連盟)	402	高尾山
委員	小原 美子	日山協常任委員 (東京都山岳連盟)	408	高尾山
委員	濱田 伸	日山協常任委員 (千葉県山岳連盟)	402	長瀬
委員	紅葉 淳一	日山協常任委員 (神奈川県山岳連盟)	402	長瀬
委員	遠山 若枝	日山協常任委員 (山梨県山岳連盟)	408	長瀬
委員	大森 基男	栃木県山岳連盟	4F リ	両神山
委員	柳原 政一	埼玉県山岳連盟	402	両神山
委員	柴崎 英保	埼玉県山岳連盟	402	両神山
委員	中西 博	埼玉県山岳連盟	403	両神山
委員	仙波 義雄	埼玉県山岳連盟	403	両神山
委員	浅香 聖成	埼玉県山岳連盟	403	両神山
委員	本村 貴子	埼玉県山岳連盟	407	両神山
委員	中川 一芳	埼玉県山岳連盟	403	両神山
委員	櫻井 勝伸	埼玉県山岳連盟	403	長瀬
委員	三ツ木 達男	埼玉県山岳連盟	403	長瀬
委員	内田 文子	埼玉県山岳連盟	408	両神山
委員	松本 博	群馬県山岳連盟	403	両神山
委員	角田 二三男	群馬県山岳連盟	404	両神山
委員	狩野 誠	群馬県山岳連盟	404	両神山
委員	齋藤 次江	群馬県山岳連盟	408	両神山
委員	小島 和徳	東京都山岳連盟	404	高尾山
委員	藤井 謙昌	東京都山岳連盟	404	長瀬
委員	石井 清一	神奈川県山岳連盟	404	長瀬
委員	横山 高明	神奈川県山岳連盟	3F リ	長瀬
委員	池谷 宏子	神奈川県山岳連盟	407	高尾山

4 施設配置図

(1) 施設全体図

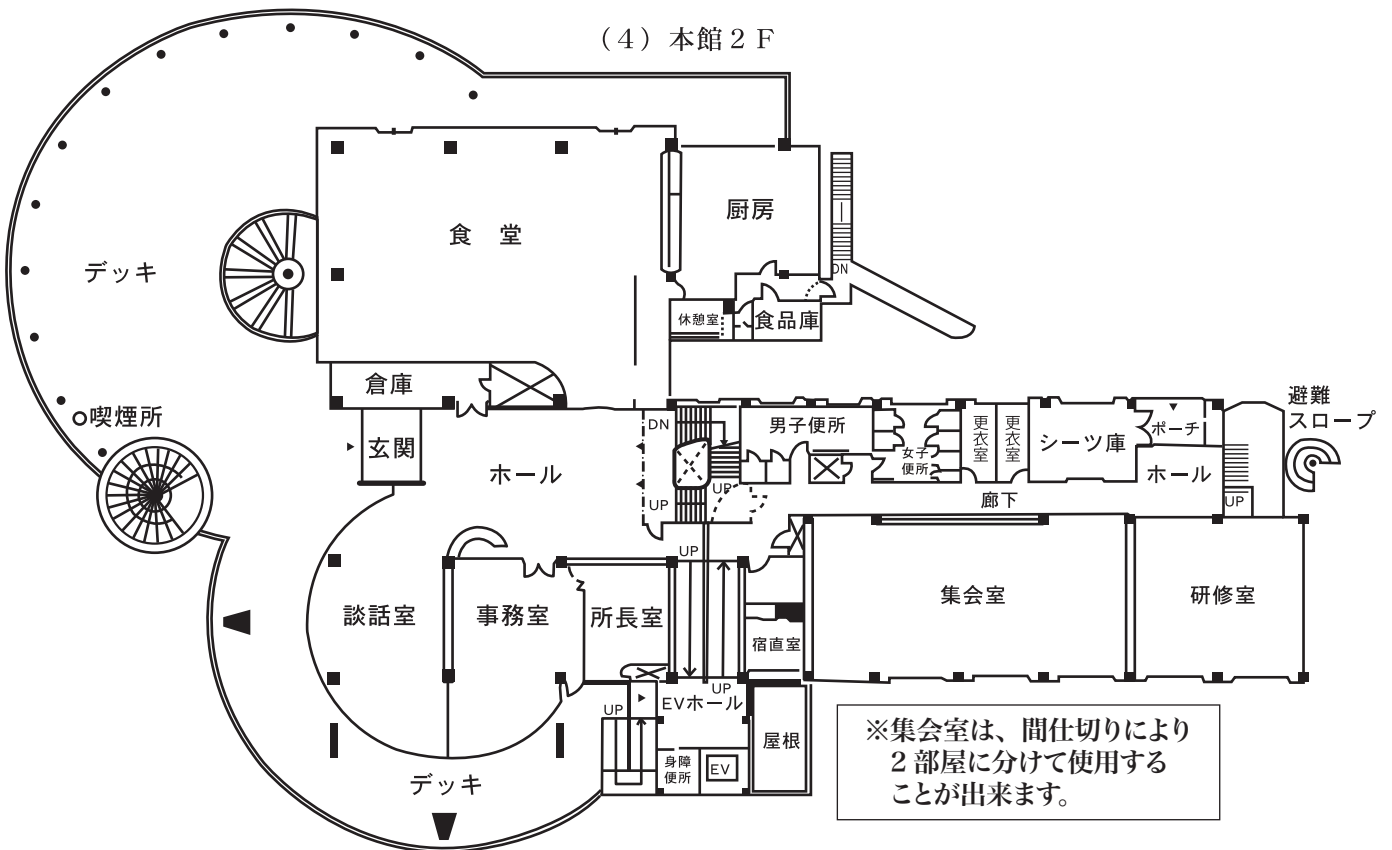


(3) 本館 1F



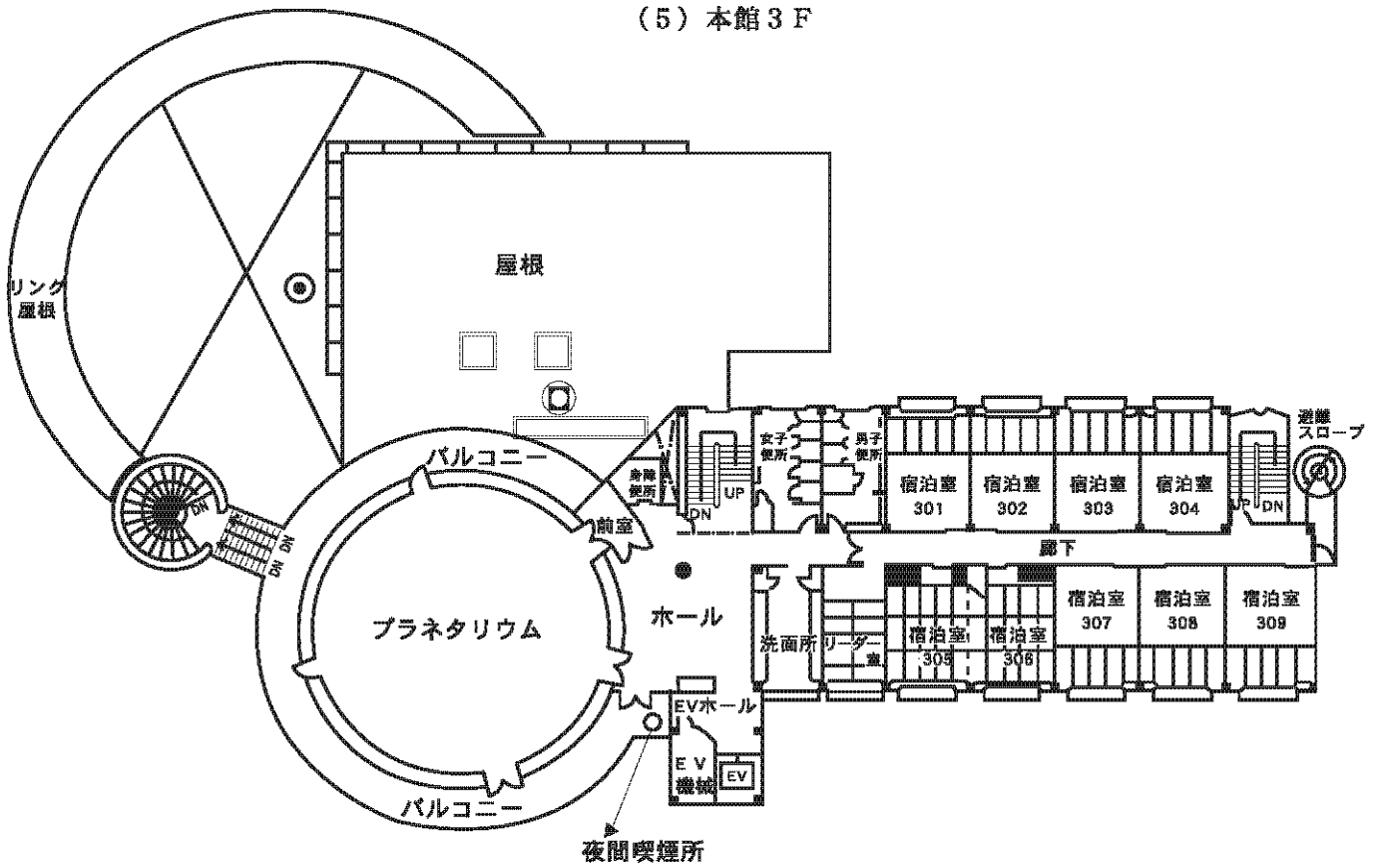
【赤ちゃんの駅】  
 1F 保健室  
 2F 身障者用トイレ  
 3F 身障者用トイレ

(4) 本館 2F

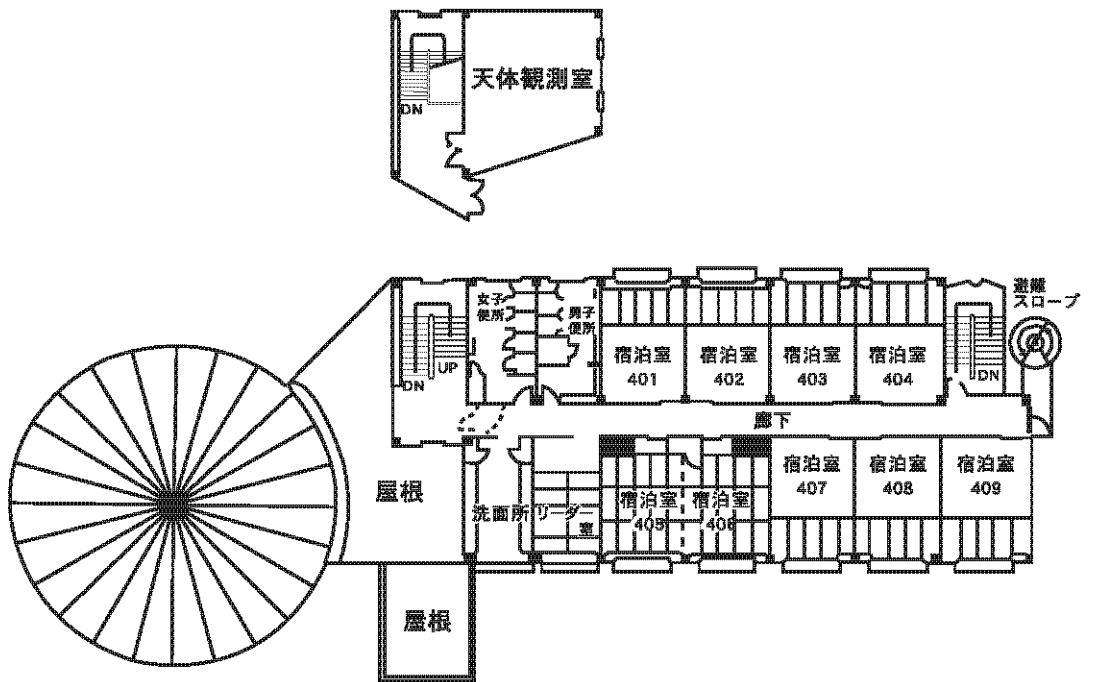


※集会室は、間仕切りにより  
 2部屋に分けて使用する  
 ことができます。

(5) 本館 3 F



(6) 本館 4 F・R





参加しよう二つのプロジェクト：山岳団体自然環境連絡会が連携し、応援しています。

## 山の野生鳥獣目撃レポート

目撃レポートを集め、山岳自然の変化を見つめます。



[www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/](http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/)

## 山岳写真データベース

新旧の山岳写真を集め、自然の変化を見つめます。



[www.mountain-photo.org/](http://www.mountain-photo.org/)

# JMA

発行元

公益社団法人日本岳協会

自然保護委員会

150-8050

東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

電話 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395

HP [www.jma-sangaku.or.jp](http://www.jma-sangaku.or.jp)

Mail [info@jma-sangaku.or.jp](mailto:info@jma-sangaku.or.jp)